籙の上半分の削平に伴い散乱したものであろう。石棺２内部はすでに盗掘をうけており、元位置を保った遺物は出土していないが、これらの散らばった鉄器は、元来石棺２内部あるいはその墓壙内に納められていたものが、盗掘時あるいは削平時に散乱した可能性も捨てきれない。

一国山１号墳の被葬者について　足守地域において古墳が特に集中するのは、字大崎付近から三井谷北側の南北約４㎞の範囲である。この範囲では、25m以上の比較的規模大きな盟主的古墳が、古墳時代前期の前方後方墳→古墳時代中期前半の方墳→古墳時代中期後半の円墳と形態を変えながら、複数の単位に分かれて築かれ、そして古墳時代中期末に至ると、盟主的古墳を築いた集団とそうでない集団との差は解消され、盟主的古墳は築かれなくなる（註６）。

一国山１号墳の位置する三井谷周辺部の、北あるいは北西に飛び出す尾根上においては、南坂８号墳→南坂２号墳→南坂９号墳と規模的に盟主的な古墳と推測される古墳が築かれている（註７）。これらの古墳は立地から三井谷入り口付近の扇状地を基盤とする集団のものと推測され、言い換えればこの三井谷付近は一つの盟主的古墳の単位を為していたともいえる。

一国山１号墳は後述するように、同じ一国山の南西斜面上に位置する、一国山２号墳あるいは３～５号墳とも連続性はみられず、５世紀後半すなわち古墳時代中期後半に、独立して築かれている。このことは一国山１号墳の被葬者が、古墳時代中期後半になって初めて、南坂９号墳の影響下で古墳を築き得るいわば新興勢力で、一方その後は再び築くことはできない、すなわち長期間継続して古墳を築造するには勢力が脆弱であるという、二つの特徴を持った集団の構成員であったことを示している

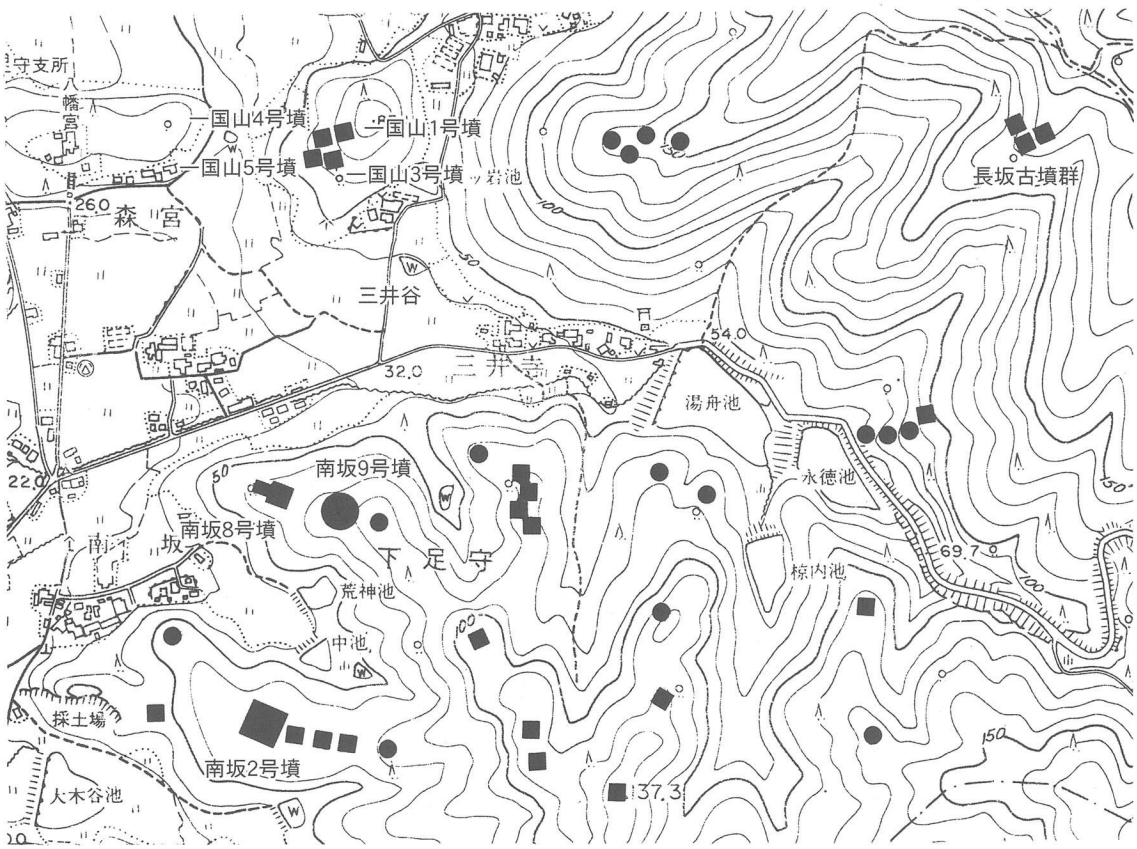


図103　三井谷周辺の前・中期古墳

『岡山市埋蔵文化財分布地図』岡山市教育委員会　1983　を加筆修正

と推測される。

一方で、一国山１号墳石棺２の墓壙には胡籙が副葬されており、また明確ではないが鉄鐸も副葬されていた可能性があり、この被葬者は、朝鮮半島の影響を受けた遺物を所持していたといえる（註８）（註９）。

これらのことから、一国山１号墳の被葬者は決して有力な集団の構成員ではなかったが、朝鮮半島と何らかの接点を持つ人物であったと考えられる。

第２項　一国山２号墳について

外護列石と横口式石槨とみられる主体部をもつ２号墳は、箱式石棺を主体とする一国山古墳群の中で、異彩を放つ墳墓である。小片ではあったが出土した須恵器から８世紀初頭に築造されたものと推測され、吉備地域の終末期古墳の中でも新しい時期に属するものであろう。県下において、終末期古墳はいくつか調査が行われているが（註10）、ここでは調査されていないものも含めた終末期古墳全体のなかで、墳丘の規模等から一国山２号墳がどのように位置づけられるのか検討してみたい。

一国山号墳の墳丘規模　これまで確認されている県下の終末期古墳は、亀山行雄氏の集成（註11）によると、７世紀を中心とするものがほとんどであり、８世紀初頭の築造とみられる古墳は惣田奥４号墳・新屋敷古墳・一国山２号墳の３例にとどまる。古墳時代終末期では、墳丘規模は方墳のほうが大きく、その多くが一辺10ｍ以上ある。またそれら規模の大きな方墳は一般的に外護列石が伴う例が多い。当該期の方墳には規模の大きい墳丘が多いという特徴があるにもかかわらず、一国山２号墳は外護列石を有しているものの南辺で約5.5ｍ、高さ２ｍを測り、他の方墳と比べ格段に小規模な古墳である。これまで県下で発掘調査の有無を含めて確認されている終末期古墳のなかでは最も小さい部類に含まれる。

古墳名	所在地	墳形	墳丘規模（m）
惣田奥４号墳	備前市佐山	－	6×1.5
摺鉢池１号墳	岡山市津高	方	8×1.5
摺鉢池２号墳	岡山市津高	方	7.5×
摺鉢池３号墳	岡山市津高	円	11×2
富原西奥古墳	岡山市富原	方	7.6×2.2
一国山２号墳	岡山市下足守	方	5×2
二子14号墳	倉敷市二子	方	13.5×2
笹池東１号墳	倉敷市西坂	方	12×3.4
向山16号墳	倉敷市矢部	－	－
半俵４号墳	倉敷市矢部	－	－
新屋敷古墳	早島町矢尾	円	9×0.2
長砂２号墳	総社市久代	方	9×2
砂古22号墳	総社市八代	方	17×6
立坂北３号墳	総社市立坂	円	6×2
沖田奥４号墳	総社市沖田奥	円	8×
沖田奥５号墳	総社市沖田奥	方	9×2
小迫大塚古墳	矢掛町南山田	方	27×6
荒神西古墳	津山市桑下	円	11×1.6
大沢２号墳	津山市久米川南	円	6×0.5
大沢１号墳	津山市久米川南	円	5×0.4
釜田２号墳	津山市桑下	円	6×
釜田１号墳	津山市桑下	円	6×
稼山６号墳	津山市久米川町	円	7×0.2
稼山５号墳	津山市久米川町	円	6×0.2
稼山４号墳	津山市久米川町	円	7×0.7
荒神古墳	津山市桑下	円	5×
定北古墳	真庭市上中津井	方	21×6
定東塚古墳	真庭市上中津井	方	－
定西塚古墳	真庭市上中津井	方	－
大谷１号墳	真庭市上中津井	方	12.9×7.3

表２　岡山県下の終末期古墳

（亀山1993をもとに作成
墳丘規模は長さ（径）×高さを表す）

築造規格について　一国山２号墳は、外護列石が良好に遺存しており、墳端を明瞭にとらえることができた。ここでは定北古墳や二子14号墳など、県下の終末期古墳の使用尺度について検討した尾上元規氏の方法（註12）を参考に、墳丘築造の使用尺度について検討してみたい。図104は一国山２号墳の平面図に唐大尺10尺（297㎝）の方眼を重ねたものである。南北辺では20尺に足りないものの、おおむね20尺四方の枠に収まることがみてとれる。主体部である石槨は大きく失われているため、石槨の規模等に関する規格の検討は試みていない。ここでは、墳丘築造に関して唐大尺を意識していた可能性を指摘しておきたい。

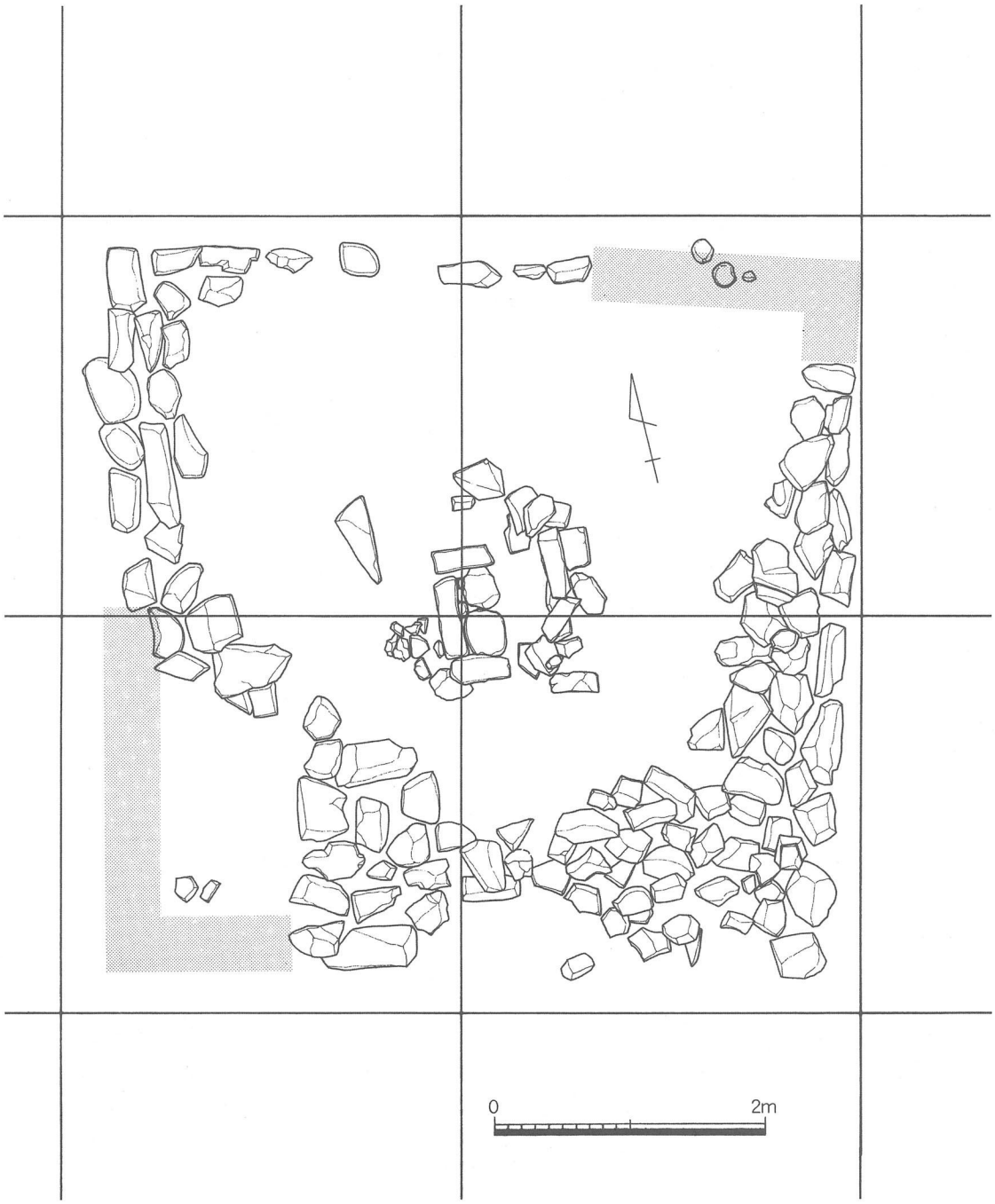


図104　一国山２号墳の築造規格（S＝１／50）　［方眼は１マス唐大尺の10尺＝297㎝］

主体部について　一国山２号墳の主体部は横口式石槨であったとみられる。その規模は、残存部分から推定して、最大でも長さ1.5m、幅１m程度である。また、石槨の掘り方は確認できず、石槨の構築と墳丘の構築は同時並行で行われたものと考えられる。

石槨の底面には板石が数枚残存しており、石槨床面は本来石敷であったと考えられる。ただし、現状で確認できた石槨床面は、板石の出土状況から見て斜面に沿って南へ傾斜しており、床面を水平につくる意図がみられない。

石槨の床面から、鉄釘が出土している。出土した鉄釘が原位置を反映しているとみるなら、石槨内に納められた木棺あるいは木櫃は、長さ約90cm、幅約40cmを大きく超えることはないだろう。また、石槨内には赤褐色を呈する焼土とみられる埋土が確認できた。石槨の規模および、鉄釘の出土状況からみた木棺または木櫃の大きさから考えて、本墳は単葬墓と推測される。

一国山２号墳の位置づけと被葬者像　亀山氏による終末期古墳の類型案（註13）にあてはめると、長砂２号墳・富原西奥古墳の属するⅡ類あるいはⅢ類の範疇に収まると考えられる。ただし、外護列石を有する点は異なるものの、古墳の立地は山の斜面を利用して単独で築かれている点、横口式石槨の可能性のある点、わずかな副葬品など、共通する点が多いのはⅡ類といえる。墳丘の規模等からみれば群集墳のⅢ類であるが、明確に６・７世紀代に築造された古墳が一国山古墳群の中に確認できない現状では、当地において、継続的に築かれた古墳とみるより、単独で築造された古墳とみるほうがいいだろう。

また、一国山２号墳の特徴として、終末期古墳にみられる段築が確認できない点を挙げることができる。ただし、主体部が大きく破壊されているため、本来は二段目の外護列石が存在した可能性は否定できない。

一国山２号墳は、墳丘規模・副葬品などからみて、地方の古墳築造に対する規制を意識して築造されたことはほぼ間違いなく、亀山氏の論考（註14）を参考にすると、おそらく下級の官人層の墓とみられる。一国山古墳群は、古代の行政区分で賀夜郡足守郷に位置しており、本墳が築造された時期は賀夜氏の勢力下にある地域である。本墳築造の背景に、賀夜氏の存在を意識するのは筆者だけではないだろう。

以上、一国山２号墳についてまとめてみた。当地域では終末期古墳の調査例はめずらしく、貴重な調査例となった。また外護列石が良好に依存していたため、当該期における終末期古墳の墳丘規模を明確にできた点は成果の一つといえる。しかし、外護列石が比較的良好に残る一方で、主体部が大きく失われていたため、主体部の形態や規模等の内容について可能性の域を超えられなかった点は悔いが残る。

岡山県下の７世紀代には小迫大塚古墳（註15）や旧北房町地域に定古墳群～大谷１号墳の首長墳の系列がみられるなど、前方後円墳の築造停止後も巨石を用いた精美な古墳が築かれている。とりわけ、旧北房町地域に展開する終末期古墳群は、調査によってその内容が明らかにされ、中央豪族と地方有力者の関係が明らかにされつつある（註16）。一方、吉備中枢地域における終末期古墳のあり方、とりわけ８世紀代の古墳については、まだ調査例も多くなく、これから徐々に明らかにされていくのであろう。そのような状況の中で、一国山２号墳は８世紀初頭における当地域の在地有力者の動向を窺える興味深い古墳といえる。

第３項　一国山３・４・５号墳について

立地について　一国山３・４・５号墳は、一国山南西斜面上に近接あるいは密着して築造されており、他の１・２号墳とは異なり３基で独立した古墳群を形成している。これらの古墳が立地する斜面からは、立木等がなければ南西側に現在の森宮集落、及び冠山と、八幡山に挟まれた三井谷入り口付近の扇状地を望むことができる。地形、立地等から、一国山３・４・５号墳は、この扇状地部分を意識して築かれたものと推測される。

墳丘について　一国山３・４・５号墳の墳丘は現状ではほとんど認められない。いずれの古墳も、墓壙は、地山を平らに整地した面から掘り込まれており、また墓壙の深さと棺身の高さは基本的に同じである。従って、まず南西に下る斜面を段状に削りだし墓壙を掘削し、次に墓壙内に石棺の身を構築し、遺体を入れ蓋石をのせ、その後盛土をおこない墳丘を完成させるという築造過程が考えられる。いずれの石棺の蓋石も現表土直下より検出されているということは、墳丘が斜面上に築かれているため盛土が流出していることを考慮しても、盛土の厚さは元々少なく、従って墳丘の高さもさほど高くなかったと考えられる。各古墳とも、埴輪、葺石等の外表施設は認められない。

主体部について　主体部はすべて組合せ式箱式石棺であった。図105、表３に示すとおり、箱式石棺の主軸はいずれも北東－南西方向を示しており、N44～58°Ｅ（真北を基準にするとN50～64°Ｅ）の範疇に収まる。同一の墳丘上における各主体部の主軸方向の差は１～２°のずれしかなくほぼ平行といえる。このことから３・４・５号墳築造時には、埋葬規定が存在していたと推定される。

石室は大きく、枕石を伴うもの（石棺４・５・６）と伴わないもの（石棺３・７・８）に分類される。

枕石を伴う石棺は、すべて４号墳の上に築かれたものであるが、そのの中でさらに板石敷きのもの（石棺５）とそうでないもの（石棺４・６）に分けられる。板石敷きである石棺５は、石棺内面の規模も石棺４・６よりも大きく、４号墳の中心主体と推測される。従って礫敷きのものはそうでないものに対し優位に立つと考えられる。

枕石を伴わない石棺は、３号墳及び５号墳に築造されたものである。３号墳の石棺3は、３基の中でもっとも副葬品が豊富であることから、３・４・５号墳の内一番優位に立つと推測される。５号墳上に営まれた石棺７・８の内、石棺７は少ないとはいえ副葬品を伴い、石棺の規模も大きく、また石棺８に先行して築かれているところから５号墳の中心主体と推測される。

副葬品について　一国山３・４・５号墳に伴う６基の石棺の内、副葬品を持つものは、３号墳の石棺３及び５号墳の石棺７である。石棺３出土の鏡は、平縁の獣形鏡あるいは獣帯鏡と考えられる破鏡である。断面が研磨されているところからこの状態で保持していたと推測され、石棺３の被葬者が鏡を保持する階層の中で最下層に位置する人物であったことをあらわしていると考えられる（註17）。

石棺３出土の管玉は碧玉製のもので、径７㎜長さ35㎜のやや大型のものと径5.5㎜長さ19.4㎜のものがある。穿孔は両側からなされており、材質は良い。

同じく石棺３からは石杵も出土している。石杵は一国山古墳群周辺では、４㎞ほど南へ位置する津寺遺跡（註18）や加茂Ａ加茂Ｂ遺跡（註19）などの足守川流域の遺跡で確認されている。時期は弥生時代後期後半から古墳時代前期までのものがあり、棒状のものとＬ字形のものがある。石棺３出土の石杵は棒状のもので、形態的には津寺遺跡の竪穴住居70（津寺古墳前Ⅱ）（註20）出土のものが近い。加茂遺跡及び津寺遺跡出土の石杵は集落内から出土しており、集落内で実際に使用したものと思われ

る（註21）。石棺３出土の石杵も使用痕が見られることから実用品と推測されるが、石棺３のみならず当古墳群各石棺内に赤色顔料は確認されない。従って石棺３の構築以前に他の場所で使用された後、石杵のみが石棺３に埋納された可能性もある（註22）。

石棺７内より出土した鉇は、刃部と茎部の間がくびれており、刃が鏝形を呈していることから、４世紀代のものと推測される（註23）。石棺３の墓壙内より出土した鉇の断片も、同型と推測される。

築造順位と築造年代について

まず一国山３・４・５号墳の相対的な築造年代を考えてみる。

一国山３・４・５号墳同士の位置関係は、３号墳及び５号墳は、４号墳よりも高所に築かれているいるところから４号墳よりも優位にあると考えられる。そして３号墳と５号墳の間では、５号墳は３号墳を拡張する形で後に構築されており、また北西側には急傾斜の北側斜面が迫っているなど、構築順位や立地などから３号墳の方が優位にあると考えられる。従って、①３号

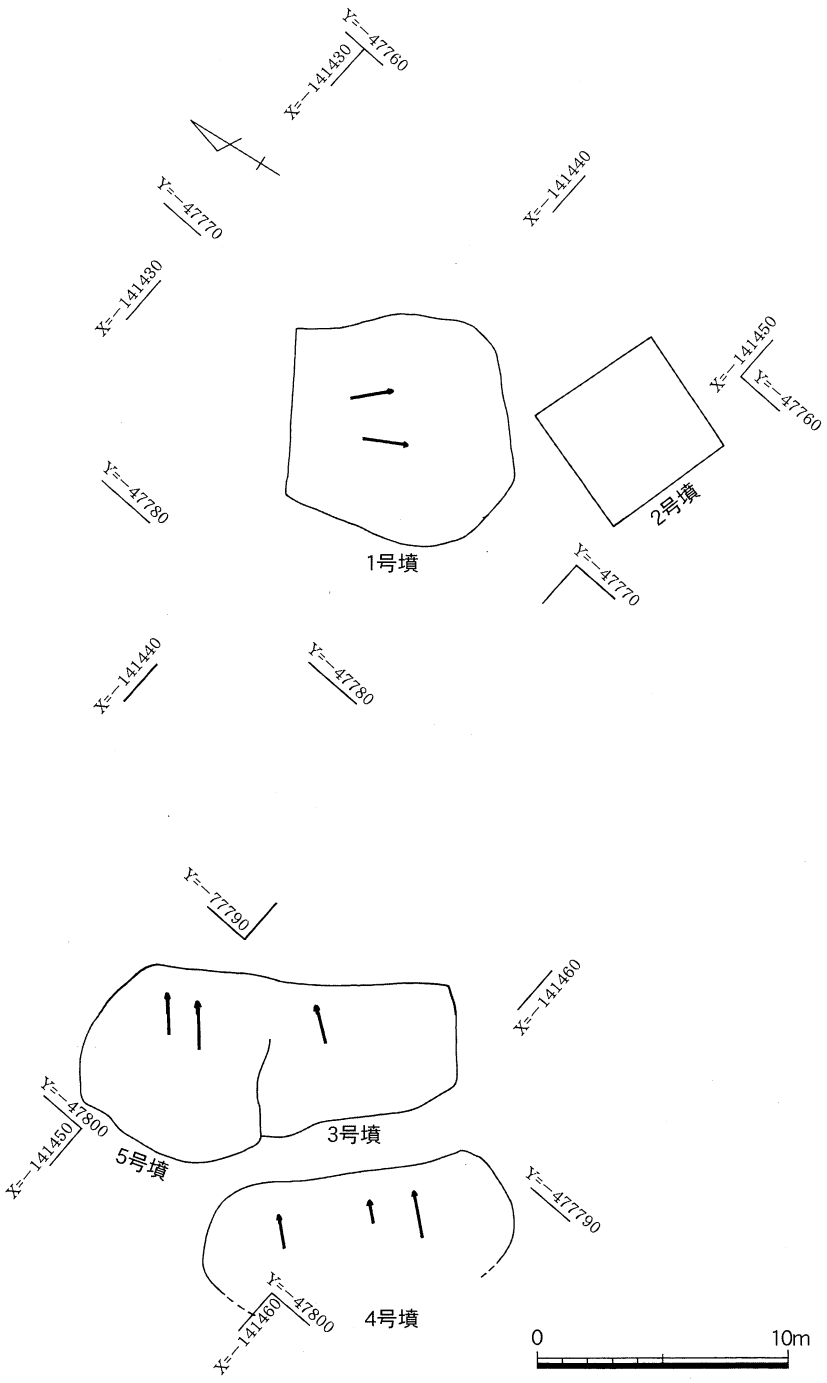


図105　一国山古墳群埋葬施設頭位模式図

古墳名	石棺名	石棺内法長	石棺内法幅	墳丘規模	磁北軸	真北軸	副葬品	註
一国山３号墳	石棺３	1.48m	0.2～0.34m	5.3m×8m	N44° E	N38° E	鏡片 管玉 石杵 鉇	
一国山４号墳	石棺４	1.55m	0.25～0.40m	12m以上	N50° E	N44° E		枕石
	石棺５	1.9m	0.3～0.4m		N49° E	N43° E		枕石 板石敷き
	石棺６	1.1m	0.34～0.4m		N48° E	N42° E		枕石
一国山５号墳	石棺７	2.1m	0.45～0.55m	7m×8m	N58° E	N52° E	鉇	
	石棺８	1.68m	0.22～0.30m		N57° E	N51° E		

表３　一国山３・４・５号墳埋葬施設一覧表

墳②５号墳③４号墳という優劣関係が推測できる。３号墳は４・５号墳が複数埋葬をおこなっているのに対し、埋葬施設が１基しか存在しない点や、副葬品の内容も、３号墳の優位性を裏付けると考えられる。すなわち一国山３・４・５号墳は３号墳を中心にして形成された古墳群と考えられる。

このことから３号墳が最初に築かれたことは確実であろう。そして５号墳が３号墳よりも後出する事もまた確実である。４号墳と５号墳の前後関係は不明である。しかし両者の石棺の軸方向が、４号墳はN48～50°Ｅ（真北ならN42～44°Ｅ）、３号墳はN44°Ｅ（真北ならN38°Ｅ）と比較的平行な値を示しており、一方５号墳のそれはN57～58°Ｅと３号墳よりも13～14°程ずれていることから、４号墳の石棺は３号墳の石棺の軸方向を意識して築かれていると考えられる。従って４号墳は５号墳に先行して築かれたと推測され、このことから３号墳→４号墳→５号墳の築造順位が想定される。

同一墳丘上での石棺の築造順位は、５号墳は墓壙の切り合いから、石棺７→石棺８という順位が想定できるが、４号墳に関しては不明である。

各古墳の築造年代は、手がかりとなる伴出遺物が少なく明確ではない。しかし３号墳石棺３より出土した鏡は、鏡式は特定できなかったものの、鏡片として副葬されている。鏡片の副葬は、北部九州においては、古墳時代初頭以降に登場する要素である（註24）。同じく石棺３出土の管玉は、平井勝氏の論考では前Ⅱ期の終わり（註25）、高橋進一氏の論考では４世紀に相当と思われる（註26）。ただ管玉の内Ｊ34の径７㎜長さ35㎜のサイズはかなり大型である。平井氏の論考では、前Ⅱ期に太身長径化し（註27）、高橋氏の論考でも、４世紀に管玉の大型化が始まることが指摘されている。また５号墳石棺７出土の鉇は４世紀代と推測され、３号墳出土のそれも同様と推測される点、一国山古墳群周辺において古墳時代前期より下る石杵の出土例は、現在のところまだ確認されていない点から、３・５号墳の築造時期は４世紀後半の範疇にあると考えられる。上記のような順位でこの３基の古墳が築かれたとするなら、遺物を伴わない４号墳も同様に４世紀の範疇にあると推測される。

石棺の主軸方向について　吉備の前期古墳の埋葬施設の主軸は、南北に方位を取り、かつ墳丘の主軸に平行ないし直交させるかのいずれかであることが明らかになっている（註28）。一国山３・４・５号墳のような前期小古墳群の埋葬施設の主軸にもこのようなことは当てはまるのだろうか。

一国山３・４・５号墳の石棺は、尾根筋を墳丘主軸とするとこれに平行して築かれていることになる。

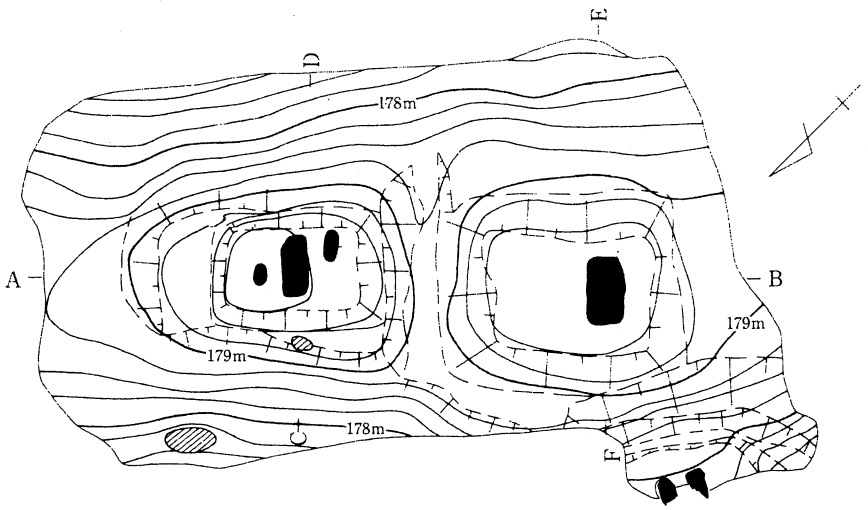


図106　長坂古墳群（註29より一部改変）

一方石室主軸は北東－南西方向を示しており、南北に方位を取っているかどうか微妙である。

当古墳群から約1㎞東にある長坂1・2・3号墳は、南西に突き出す標高180ｍほどの尾根上に築かれた古墳時代前期前半の古墳群である（註29）。長坂1・2号墳は尾根筋上に、北西側の斜面に3号墳が築かれている。1号墳の主体部は、尾根筋に直交して箱式石棺・器台転用棺・土器館が、2号墳の主体部は箱式石棺が尾根筋を墳丘主軸とすると、それぞれそれに直交して築かれている。3号墳は墳丘がほとんど破壊されているため不詳であるが、2基の箱式石棺は北西にのびる尾根筋と平行に築かれていると推測される。埋葬施設の主軸は北西－南東を示す。

当古墳群から約9㎞南西の殿山古墳群（総社市）は、北から南へ、そして途中から南西へ向きを変えて飛び出す標高40～75ｍの尾根上に位置する、おおむね前Ⅱ期以前（4世紀後半以前）に比定される古墳群である（註30）。尾根筋に築かれた古墳の内、8～16号墳及び21号墳が調査されている。尾根筋を墳丘主軸とすると、8～12号墳はそれに平行して、13～16号墳及び21号墳は直交して築かれている。埋葬施設の主軸の方位は、平行する8～12号墳は北－南から北東－南西、直交する13～16及び21号墳は東－西から東南－北西とかなり幅がある。

当古墳群から南へ約6㎞離れたところに位置する郷境墳墓群は、南南西から北北東に下る標高52～55ｍの尾根上に3基（1・2・5号墓）、そこから分岐して西から東へ下る標高40～50ｍの尾根上に2基（3・4号墓）の墳丘が築かれている、弥生後期から古墳時代初頭にかけて営まれている古墳群である（註31）。尾根筋を墳丘主軸とすると、1・4・5号墓はそれと平行に、2・3号墓はこれと直交して主体部は築かれている。主体部の主軸はかなり正確に東－西、南－北を指向する3・4号墓と、北東－南西あるいは北西－南東を指向する1・3・5号墓に分かれる。

当古墳群及び、上記の古墳群の内4世紀以前でしかも弥生時代にさかのぼらないと推測される古墳（註32）の埋葬施設主軸を、真北を基準にして図示すると図109のようになる（註33）。このデータから、墳丘主軸に平行あるいは直交するという吉備地方の前期古墳の原則は、一国山3・4・5号墳も含め古墳時代前期の小型古墳群にも当てはまるものと考えられる。

しかし主体部主軸の方位は、大まかに見て、南北あるいはそれに直交する東西を指向するものの、その角度は最大50～60°の誤差を示

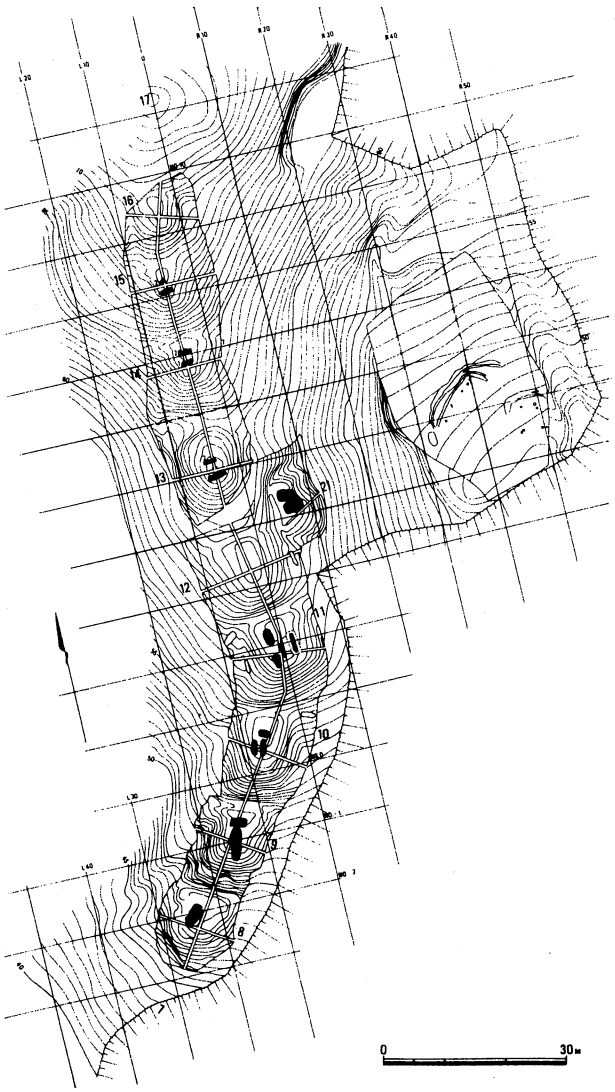


図107　殿山古墳群（註25より一部改変）

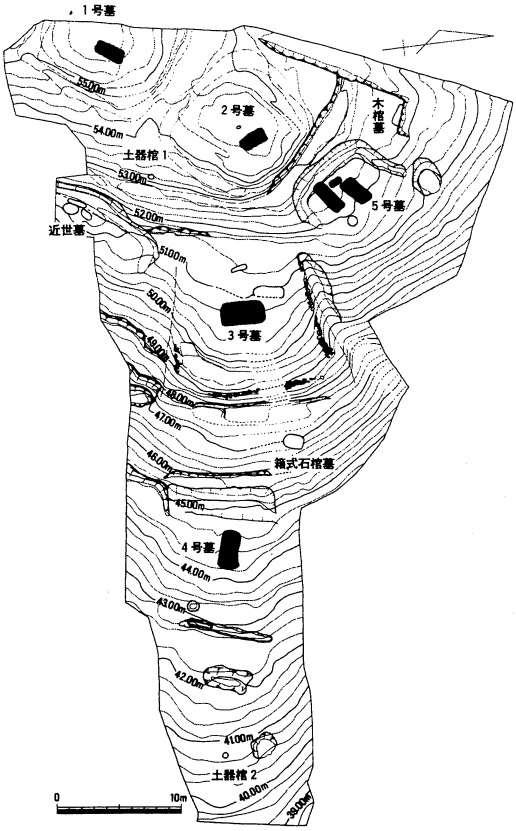


図108　郷境墳墓群（註31を一部改変）

ており、「南北に方位を取る」という規制が強く働いているとは言い難い。言い換えれば南北あるいは東西を「漠然と」指向していると考えられる。

前記のうち、主体部主軸が比較的南北・東西の正方位に近い古墳は、殿山11号墳、郷境３号墓（以上南北）、殿山13・14号墳、郷境４号墓（以上東西）があるが、これらが立地する地形を観察すると殿山11・13・15号墳は、ほぼ南北にのびる尾根上に所在し、郷境３・４・５号墓はほぼ東西へのびている尾根上に所在していることが認められる。このことは古墳群の立地する尾根筋が延びる方位によって墳丘の主軸方位が決まり、それに平行あるいは直交して築かれることにより体部主軸の方位も自ずから決定されてゆくと推測される。つまり一国山３・４・５号墳及び周辺部の前期古墳群における主体部は、墳丘の主軸にあわせることの方が、方位をあわせることよりもかなり優先されていると考えられるのである。但しこれらの古墳群で頭位の判明するものは、大まかに見て北あるいは東頭位であり、重葬の例

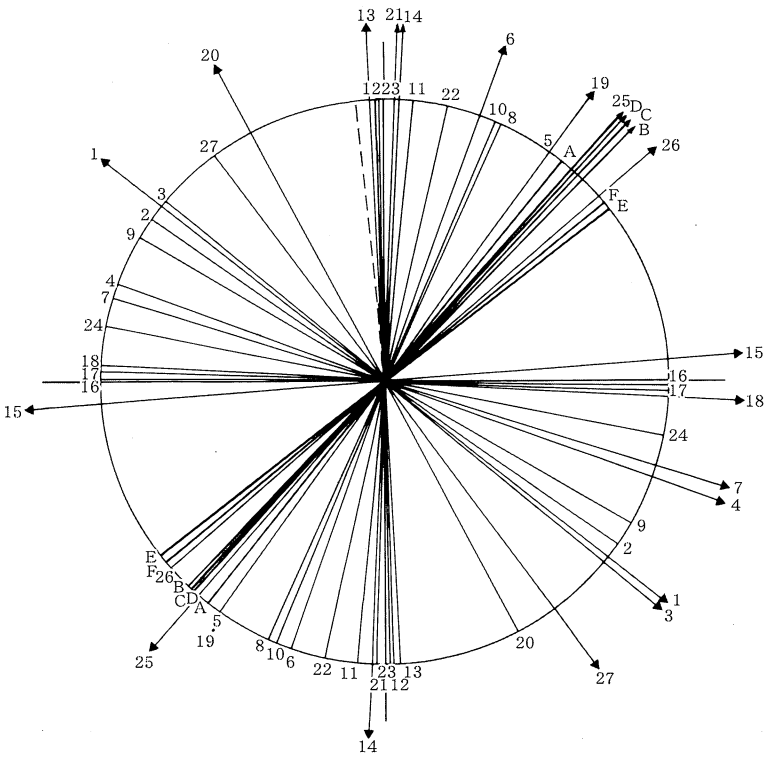


図109　前期古墳における埋葬主体の主軸と方位

殿山古墳群の主軸の角度は註25の文献より引用した
矢印方向は頭位（枕石等で方向の確実なもの）

A―国山３号墳石棺３
B―国山４号墳石棺４
C―国山４号墳石棺５
D―国山４号墳石棺６
E―国山５号墳石棺７
F―国山５号墳石棺８

１長坂１号墳主体部・器台転用棺
２長坂１号墳土器館
３長坂２号墳主体部
４長坂３号墳Ａ・Ｂ主体部

５殿山８号墳主体部
６殿山９号墳第１主体部
７殿山９号墳第２主体部
８殿山10号墳第１主体部
９殿山10号墳第２主体部
10殿山10号墳第３主体部
11殿山11号墳第１主体部
12殿山11号墳第２主体部
13殿山11号墳第３主体部
14殿山11号墳第４主体部
15殿山13号墳第１主体部
16殿山13号墳第２主体部
17殿山14号墳第１主体部
18殿山14号墳第２主体部

19郷境１号墓主体部
20郷境２号墓主体部
21郷境３号墓第１主体部
22郷境３号墓第２主体部
23郷境３号墓第３主体部
24郷境４号墓主体部
25郷境５号墓第１主体部
26郷境５号墓第２主体部
27郷境５号墓第３主体部

（註34） をのぞけば、西あるいは南頭位は見られない。従って、「南北に方位を取る」という規制は決して働いていないわけではない。これら古墳時代前期の小型古墳群は、墳丘の規模や構築方法から考えて、立地する場所の地形の影響を非常に受けやすいと考えられる。上記のような特徴は、地形の制約を受けながらも南北に方位を取り、かつ墳丘の主軸に平行ないし直交させるという、吉備地方の前期古墳の規制を追求した結果生じたものと推測される。

註

（註１） 高橋進一「玉造遺跡と玉製品」『吉備の考古学的研究（下）』山陽新聞社　1992

（註２） 杉山秀宏「古墳時代の鉄鏃について」『橿原考古学研究所論集第8』吉川弘文館　1989

（註３） 註２前掲書によればⅦ期は随庵古墳（総社市）、Ⅷ期は稲荷山古墳（埼玉）、東間部多第1号墳（千葉）、高林第72号墳（群馬）に相当する。

（註４） 山本悦世・土井基司・田代健二「集成12須恵器」註１前掲書

（註５） 高畑知功・平井泰男・柴田英樹「集成11土師器」註１前掲書

（註６） 草原孝典「吉備地方の古墳群－前・中期を中心に－」『季刊考古学71号』雄山閣 2000

（註７） 註６前掲書によると草原氏は、足守地域には南半と北半にそれぞれ若干規模の大きな盟主的古墳の単位が存在し、南坂8号墳より約２㎞南の前方後方墳である上土田4号墳・1号墳が古墳時代前期の、方墳である南坂２号墳が古墳時代中期前半の、南坂９号墳が中期後半の、それぞれ字三井谷から上土田にかけての足守地域北半部における、盟主的古墳であったと推測している。今回の調査で従来一辺15ｍの方墳とされていた南坂８号墳が全長27ｍの前方後方墳と判明したことにより、上土田４・１号墳のさらに北側に、古墳時代前期の盟主的な前方後方墳が所在することになり、足守地域には３つの盟主的古墳の単位が存在する可能性もでてきた。南坂９号墳が、南坂８号墳の単位に含まれると仮定するなら、その勢範囲は足守地域の北半から、北端部へと縮小する可能性も考えられる。

（註８） 鉄鐸の出土は韓国でも数例、古墳及び祭祀遺跡で確認されている。行田裕美「鉄鐸について」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第58集　西吉田北遺跡』津山市教育委員会　1997より

（註９） 坂　靖「胡籙の系譜」『同志社大学考古学シリーズⅤ 考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズ刊行会 1992

（註10） Ａ『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告81 山陽自動車道建設に伴う発掘調査５ 二子14号墳』 岡山県教育委員会 1993

Ｂ『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告83 山陽自動車道建設に伴う発掘調査７ 富原西奥古墳』 岡山県教育委員会 1993

Ｃ『定北古墳』 岡山大学考古学研究室 1995

Ｄ『大谷１号墳』岡山県北房町教育委員会 1998

Ｅ『定東塚・西塚古墳』岡山大学考古学研究室 2001

Ｆ福本明・白石　純「漆喰を使用した横穴式石室の一例－倉敷市笹池東１号墳の測量調査」 『環瀬戸内海の考古学－平井 勝氏追悼論文集－下巻』 古代吉備研究会 2002

（註11） 亀山行雄「７世紀の古墳」註１前掲書

（註12） 尾上元規「第４章　考察１　終末期古墳の築造規格と変遷」 註10Ｃ前掲書

（註13） 註11Ｃ・Ｄ・Ｅ前掲書

（註14） 註11前掲書

（註15） 藤田憲司・伊藤晃「小迫大塚古墳」『岡山県史 考古資料』 岡山県 1986

（註16） 註10

（註17） 今井堯「吉備における鏡配布体系」 註１前掲書

（註18） 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告104 津寺遺跡』 岡山県教育委員会 1996

（註19） 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告94足守川加茂Ａ遺跡　足守川加茂Ｂ遺跡　足守川矢部南向遺跡』 岡山県教育委員会 1995

（註20） 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告94足守川加茂Ａ遺跡　足守川加茂Ｂ遺跡　足守川矢部南向遺跡』

岡山県教育委員会1995）

（註21） 岡山真知子「岡山県下出土の水銀朱出土遺物」 註10Ｆ前掲書

（註22） 北條芳隆氏は、池ノ内１号墳（奈良県）の赤色顔料を塗布した埋葬施設から石杵が出土せず、赤色顔料が見られない隣接の埋葬施設から石杵が出土している例から、個別葬送儀礼で用いられた用具が、そのまま副葬・埋置されることなく別の機会に再使用されるか、埋葬に当たっての置き分けが意図的におこなわれた可能性を想定しておられる。（北條芳隆「葬送儀礼における朱と石臼」『長法寺南原古墳の研究』大阪大学文学部1992）より）

（註23） 古瀬清秀「農耕具」『古墳時代の研究８　古墳Ⅱ　副葬品』 雄山閣　1991

（註24） 安川満「第５章　まとめ　１、古墳の年代」『宗形神社古墳』 岡山市教育委員会 1999

（註25） 平井勝「第３節　副葬品」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告47　殿山遺跡　殿山古墳群』 岡山県文化財保護協会 1982

（註26） 註１前掲論文

（註27） 註Ｉ前掲書

（註28） 北條芳隆「墳丘と方位から見た七つ坑１号墳の位置」 『七つ坑古墳群』 七つ坑古墳群発掘調査団　1978

（註29） 『長坂古墳群』岡山市教育委員会　1999

（註30） 註25前掲書

（註31） 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告89 山陽自動車道建設に伴う発掘調査 1郷境墳墓群 2前池内遺跡 3後内池遺跡 4黒住・雲山遺跡 5甫崎天神山遺跡』日本道路公団広島建設局岡山工事事務所 岡山県教育委員会　1994

（註32） 平井勝氏は、殿山13～16号及び21号を弥生墳丘とされている（平井勝「第Ⅷ章　結語　第１節古墳の年代と墳丘墓」註25前掲書）。亀山行雄氏は註31前掲書「Ⅲまとめ　(4)郷境墳墓群の位置付け」表５において、13・14号墳を上東編年の下田所式、百間川編年の古墳時代Ｉに位置づけている。ここでは13・14号墳も古墳時代に含め、図に記入する。

（註33） 磁北から真北に修正したのは註22前掲書内で北條芳隆氏が述べられている理由による。なおこの図の真北は、磁北から６°東へ振った値である。

（註34） 長坂１号墳石棺、殿山21号墳第1主体部は人骨の出土状況から重葬である。また殿山９号墳第１主体部、殿山11号墳第４主体部、殿山13号墳第１主体部は枕石の位置から重葬と推測される。

土器

掲載番号	調査区	遺構・土層名	種別	器種	法量（cm）				色調	胎土	焼成	形態・手法の特徴	備考
					口径	最大胴径	底径	器高					
1	南坂８号墳	Ｐ１	弥生土器	長頸壺	20	－	－	(1.95)	外：鈍い黄橙（10YR7／4） 内：浅黄橙(10YR8／4)	0.5㎜位の長石石英。 金雲母含む。	良好	口縁内外面ともヨコナデ。口縁凹線６条。棒状浮文有り。口縁1／6周残。	
2	南坂８号墳	Ｐ１	弥生土器	台付鉢	17	22	－	(5.9)	外：浅黄(2.5Y7／4) 内：浅黄(2.5Y7／3)	0.5～１㎜の長石石英多。	良好	口縁内外面ともヨコナデ。胴部は外面ハケメ。口縁凹線３条。棒状浮文と竹管文有り。肩部に刺突文。口縁から肩部にかけ1／6周残。	
3	南坂８号墳	Ｐ１	弥生土器	甕	14.4	－	－	(3.5)	外：鈍い黄橙（10YR7／4） 内：鈍い黄橙(10YR7／4)	0.5～１㎜の長石石英。 金雲母含む。	良好	内外面とも口縁ヨコナデ。胴部はハケメ残る。口縁凹線３条。口縁1／6周残。	
4	南坂８号墳	Ｐ１	弥生土器	高坏	11.6	－	－	(4.2)	外：鈍い黄橙（10YR7／4） 内：浅黄橙(10YR8／4)	0.5～１㎜の長石石英多。	良好	内外面とも口縁ヨコナデ。杯部はヘラミガキ後ナデ。杯部1／5周残。	
5	南坂８号墳	Ｐ１	弥生土器	台付鉢	－	－	12.1	(3.3)	外：浅黄橙（10YR8／3） 内：鈍い黄橙(10YR7／4)	0.5～１㎜の長石石英。 金雲母含む	良好	外面ヘラミガキ後ナデ内面ヘラケズリ。円形スカシ孔24個未貫通のもの所々に有り。	
6	南坂８号墳	Ｐ１	弥生土器	高坏	17.7	－	－	(2.1)	外：浅黄橙(10YR8／4) 内：浅黄橙(10YR8／3)	0.5～１㎜の長石石英多。	良好	内外面とも口縁ヨコナデ。坏部はヘラミガキ。杯部1／6周残。	
7	南坂８号墳	Ｐ１	弥生土器	高坏	－	－	9.6	(6.0)	外：鈍い橙（7.5YR7／4） 内：浅黄橙(10YR8／4)	0.5～１㎜の長石石英。 金雲母含む。	良好	外面ヘラミガキ後ナデ内面ヘラケズリ。三角形スカシ孔13個。沈線5条。	
8	南坂８号墳	Ｐ５	土師器	甕	－	15.6	－	(8.1)	外：橙（7.5YR7／6） 内：鈍い黄橙(10YR7／4)	0.5～1.5㎜の長石石英多	良好	口縁内外面ともヨコナデ。胴部は外面ハケメ。内面ヘラミガキ後ナデ。胴部下半に黒斑。口縁端部欠損口縁から胴部上半1／4周残。	
9	南坂８号墳	Ｐ５	土師器	高坏	(16.6)	－	－	(9.8)	外：橙（5YR6／6） 内：明赤褐（5YR5／6）	0.5～１㎜の長石石英多	良好	外面ハケメ後ヘラミガキ。内面坏部はハケメ後ヘラミガキ。脚部はハケメ後ナデ。円形スカシ孔４カ所。	
10	南坂８号墳	土器棺墓	土師器	高坏	19.95	－	－	(12.6)	外：鈍い橙（5YR6／4） 内：橙（5YR6／6）	水漉し粘土使用。 金雲母含む。	良好	坏部は内外面ともヘラミガキ横方向。脚柱部は外面ハケメ後ヘラミガキ。内面シボリ後ナデ。壺棺の蓋として使用。脚裾部欠損。	
11	南坂８号墳	土器棺墓	土師器	壺	－	29.6	6.5	(27.65)	外：橙（7.5YR6／6） 内：鈍い黄橙(10YR6／3)	0.5～１㎜の長石石英。	良好	外面ハケメ後ヘラミガキ。内面ヘラケズリ。下半ユビオサエ。肩部に刺突文。胴から底部にかけて黒斑有り。口縁欠損。	
12	南坂８号墳	埴輪棺墓	埴輪	円筒埴輪	25.3	－	14.85	40.7	外：橙（7.5YR7／6） 内：明黄褐（10YR7／6）	0.5～１㎜の長石石英。	良好	外面ハケメ縦方向。下端部ヘラケズリ。内面ハケメ縦方向後上部は横方向のハケメ。後ナデ。下端部ユビオサエ。線刻あり。円形スカシ孔２カ所。	
13	南坂８号墳	埴輪棺墓	埴輪	円筒埴輪	23.4	－	15.75	40.4	外：橙（7.5YR7／6） 内：鈍い橙(7.5YR7／4)	0.5～１㎜の長石石英多。	良好	外面ハケメ縦方向。下端部ヘラケズリ。内面ハケメ縦方向上端部ヨコナデ。線刻あり。円形スカシ孔２カ所。	
14	南坂８号墳	埴輪棺墓	埴輪	円筒埴輪	27.3	－	－	(39.0)	外：鈍い黄橙（10YR7／4） 内：橙（7.5YR7／6）	0.5～１㎜の長石石英。	良好	外面ハケメ縦方向。内面ハケメ縦方向後上部は横方向のハケメ。線刻あり。円形スカシ孔３カ所。	
15	南坂８号墳	石蓋土壙墓１	須恵器	坏蓋	14.9	－	－	(4.4)	外：灰（10Y6／1）内：灰(7.5Y6／1)	0.5～１㎜の長石石英。	良好	外面上部ヘラケズリ内面天井部仕上げナデ。口縁1／3残。	
16	南坂８号墳	石蓋土壙墓１	須恵器	坏蓋	13.45	－	－	4.9	外：灰白（7.5Y7／1)内：灰白(5Y7／1)	0.5～２㎜の長石石英。	良好	外面上部ヘラケズリ内面天井部仕上げナデ。4／5残。	
17	南坂８号墳	石蓋土壙墓１	須恵器	坏身	10.9	－	－	4.55	外：灰白（5Y7／1)内：灰白(7.5Y7／1)	0.5～１㎜の長石石英多。	良好	外面底部ヘラケズリ内面底部仕上げナデ。	
18	南坂８号墳	石蓋土壙墓２	須恵器	坏蓋	14.2	－	－	4.5	外：(N5／0)内(N5／0)	0.5～１㎜の長石石英多。	良好	外面底部ヘラケズリ内面ユビオサエ。No.19とセットか？。	
19	南坂８号墳	石蓋土壙墓２	須恵器	坏身	12.75	－	－	4.5	外：暗青灰(5B4／1)内：暗青灰(5B3／1)	0.5～１㎜の長石石英。	良好	外面底部ヘラケズリ内面底部仕上げナデ。	
20	南坂８号墳	主体部２	須恵器	坏蓋	14	－	－	4.8	外：灰白（5Y7／1)内：灰白(7.5Y7／1)	0.5～１㎜の長石石英多。	良好	外面上部ヘラケズリ内面ナデ。	
21	南坂８号墳	主体部２	須恵器	坏身	12.25	－	－	4.65	外：灰白（7.5Y7／1)内：灰白(7.5Y7／1)	0.5～１㎜の長石石英多。	良好	外面底部ヘラケズリ内面ナデ。No.20とセット。	
22	南坂８号墳	その他の遺物	弥生土器	高坏	－	－	－	(4.7)	外:浅黄橙(10YR8／5) 内:浅黄橙(10YR8／3)	0.5～１㎜の長石石英。	良好	内面ヘラケズリ。端部内外面ヨコナデ。	２次焼成うけて表面劣化。
23	南坂８号墳	その他の遺物	弥生土器	甕	16	－	－	(8.3)	外:橙(7.5YR7／6)内:明橙褐(10YR7／6)	0.5～１㎜の長石石英多。	良好	外面ヘラミガキ。口縁部内外面ナデ。内面ナデ。	
24	南坂８号墳	その他の遺物	弥生土器	甕	－	－	－	－	外:橙(7.5YR7／6)内:にぶい橙(7.5YR6／4)	0.5～２㎜の長石石英多。	良好	外面ヨコナデ。口縁部内外面ヨコナデ。内面ヘラケズリ。	口縁部小片
25	南坂８号墳	その他の遺物	須恵器	坏蓋	12.3	－	－	(8.45)	外：灰（7.5YR6／1)内：灰白(N7／0)	0.5～２㎜の長石石英。	良好	外面上部ヘラケズリ。1／8残。	

（　）は現存高

26	南坂８号墳	その他の遺物	土師器	鍋	30.6	－	－	(7.85)	外：鈍い黄橙（10YR6／4） 内：橙（7.5YR6／6）	0.5mm位の長石石英。 赤色土粒含む。	良好	外面ハケメ口縁部ユビオサエ後ヨコナデ。内面口縁部はハケメ後ヨコナデ胴部はヘラケズリ。	
27	一国山・第１郭Ⅳ区	Ｐ2b上層	備前焼	壺	15.8	－	－	－	外：灰褐（5YR6／2） 内：灰褐（7.5YR5／2）	0.5mm程の長石若干。	良好	端部折りまげ玉縁口縁。内外面ろくろナデ。	
28	一国山・第１郭Ⅳ区	Ｐ1・2盛土	土師質土器	深椀	10.05	－	4.3	3.9	外：灰白（2.5Y8／2） 内：浅黄（2.5Y7／3）	0.5mm程の長石、石英 赤色土粒若干混在。	良好	底部中央が内方に盛り上がる深椀。口縁部やや内傾。指押さえ整形とナデ調整。	へそ椀。
29	一国山・第１郭Ⅳ区	Ｐ1・2盛土	土師質土器	高台付椀	9.8	－	2.9	4.05	外：浅黄橙（10YR8／3） 内：浅黄橙（10YR8／4）	0.5～1mmの長石石英。	良好	半球形椀。高台は貼付で申し訳程度。口縁端部はヨコナデでやや外反。外面は指押さえ後ナデ、内面はハケ目後ナデ。	高台が中心に位置していないからゆがんでいる。
30	一国山・第１郭Ⅳ区	Ｐ1・2盛土	土師質土器	坏	9.1	－	5	2.5	内外：鈍い黄橙（10YR7／4）	精良胎土。0.5～1mm砂礫若干。	普通	底部指押さえで成形、口縁部ヨコナデ調整。	
31	一国山・第１郭Ⅳ区	Ｐ2b上層	備前焼	大甕	33.3	－	－	(8.3)	外：鈍い黄橙（10YR6／4） 内：鈍い黄（2.5YR6／3）	0.5～1mmの長石黒粒含む。	良好 自然釉掛り	端部折りまげ玉縁口縁。口縁部は変形して波打っている。縁部はヨコナデ、胴内外面ともハケ目後ナデ。	口縁部内側に、ヘラ記号あり「×」。
32	一国山・第１郭Ⅳ区	Ｐ1・2盛土	弥生土器	鉢	31.7	－	－	(9.95)	外：鈍い橙（7.5YR6／4） 内：橙（5YR6／6）	0.5～1mmの長石石英。	良好	口縁端部Ｔ形に拡張し沈線5条。内外面ヘラナデ、口縁部は強いヨコナデ。	有黒斑。
33	一国山・第１郭Ⅳ区	Ｐ2下層	弥生土器	高坏	23.9	－	－	(4.1)	外：橙（5YR7／6） 内：橙（5YR7／8）	0.5～1mmの長石石英、 金雲母多し。	良好	口縁立上り部は強いヨコナデ、口唇肥厚部に沈線3条。外面は放射状にヘラミガキ、内面は横方向のヘラミガキ。	
34	一国山・第１郭Ⅳ区	Ｐ2下層	弥生土器	甕口縁部	－	－	－	－	外：橙（5YR6／6） 内：明黄褐（10YR7／6）	0.5～1mmの長石石英 多し、金雲母含む。	普通	口縁端部折り返し肥厚し強いヨコナデ、肥厚部に擬凹線5条。	
35	一国山・第１郭Ⅳ区	弥生土壙３	弥生土器	台付直口壺	－	12.1	10.6	(13.3)	内外：鈍い黄橙（10YR6／4）	0.5～1mmの長英石英 金雲母含む。	良好	肩部に最大径を持つ直口壺。頸部外面は縦のヘラミガキ、内面横ヘラミガキ、胴部外面ハケ目後縦ヘラミガキ、ただし肩部は横。脚部は外面が縦ヘラミガキ、内面が絞り、ハケ目。	胴部下半に焼成後の穿孔有り。脚部円形透かしの個数は不確定。有黒斑。
36	一国山・第１郭Ⅳ区	弥生土壙３	弥生土器	台付直口壺	(6.9)	(9.95)	(7.5)	－	外：浅黄橙（7.5YR8／6） 内：橙（7.5YR7／6）	0.5mm程の長石、微砂粒。	良好	胴下半に最大径があり、下ぶくれの印象の直口壺。縁部ヨコナデ、胴内面ケズリ、外面ヘラミガキ、台部端部は強いヨコナデ調整。	胴部下半に焼成後の穿孔有り。脚部円形透かしの個数は不確定。
37	一国山・第１郭Ⅳ区	弥生土壙３	弥生土器	壺	－	9.4	3.6	(8.25)	外：橙（5YR6／6） 内：明赤褐（5YR5／6）	精良胎土。 0.5mm程の長石多し。	良好	平底で胴部上半に最大径がある甕形土器。外面上半は細かな横ヘラミガキ、外面下半は縦方向のヘラミガキ、ナデ、頸部内面も横ヘラミガキ。	内外面に赤色顔料。胴下部に焼成後の穿孔あり。
38	一国山・第１郭Ⅳ区	弥生土壙２	弥生土器	高坏脚部	－	－	12.0	(4.9)	内外：橙（5YR6／6）	精良胎土。 0.5mm以下の長石少し。	良好	短柱部にハ形に開く脚部。端部はナデで若干内傾気味。外面は放射状にヘラミガキ、内面はハケ目。	透かし円孔4箇所（外から内方向に）杯部中央外底面に刺突痕あり。直接接合しないが、杯部破片に赤色顔料（丹？）あり。
39	一国山・第１郭Ⅳ区	段状遺構Ａ Ｐ8	土師質土器	椀	9.1	－	－	(3.0)	外：淡黄（2.5Y8／4） 内：浅黄橙（10YR8／3）	精良胎土。 微砂粒若干。	良好	緩やかなカーブを描く体部。口縁部ヨコナデ、外面はナデ。	底部の形状は不明、破片からは平底気味。無高台の可能性有り。
40	一国山・第１郭Ⅳ区段状遺構Ｂ	集石４№1	土師質土器	深椀	9.7	－	4.3	4.05	内外：浅黄橙（10Y8／4）	0.5～2mmの長石石英 多し、赤色粒含む。	良好	平底を意識して形成しているが、へそ椀気味。	被熱で一部橙色を帯びる。
41	一国山・第１郭Ⅳ区段状遺構Ｂ	集石４№2	土師質土器	深椀	9.65	－	5.6	4.4	内外：浅黄（2.5Y8／3）	0.5～1mmの長石石英。	良好	体部下半指押さえ成形、口縁部ヨコナデ、内面はナデ。へそ椀であるが低平な高台が付く	
42	一国山・第１郭段状遺構Ａ	炭層下落とし	土師質土器	深椀	－	－	－	－	外：浅黄（2.5YR8／3） 内：灰白（10YR8／2）	0.5mm位の長石石英。	良好	口縁ヨコナデ、口縁端部ヘラナデあり、内面ナデ整。	
43	一国山・第１郭段状遺構Ａ	床上層	土師質土器	椀	－	－	－	－	内外：鈍い黄橙（10YR7／4）	0.5mm位の長石。石英、 金雲母、赤色粒含む。	良好	浅めの椀？。	
44	一国山・第１郭段状遺構Ａ	覆土上層	土師質土器	深椀	9.5	－	2.5	4.2	外：浅黄橙（10YR8／4） 内：浅黄橙（10YR8／3）	0.5～1mmの長石石英。	良好	口縁部ヨコナデ、高台が付くかどうかは不明。	

（　）は現存高

45	一国山・第1郭段状遺構A	覆土上層	土師質土器	深椀	－	－	3.9	(1.1)	外：淡黄（2.5YR8／3）・内：浅黄橙（10YR8／3）	0.5mm位の長石石英、金雲母、赤色粒含む。	良好	へそ椀であるが、低平な高台が付く。	
46	一国山・第1郭段状遺構A	炭層下落とし	土師質土器	高台付椀	－	－	－	－	内外：灰白（2.5Y8／2）	0.5mm位の長石石英。	良好	高台は貼り付け、径5cmほど。	磨耗している。
47	一国山・第1郭段状遺構A	床上層	土師質土器	小皿	5.7	－	5.1	1.05	外：鈍い橙（7.5YR7／4）内：鈍い橙（5YR7／4）	0.5mm以下の長石少し。	良好	回転ナデで引き延ばされた程度の体部、外底面はヘラ切り。	
48	一国山・第1郭Ⅳ区	段状遺構A№7	土師質土器	小皿	6.25	－	4.75	1.23	外：鈍い橙（5YR6／4）内：橙（5YR6／6）	精良胎土。微砂粒若干。	良好	内外面ともヨコナデ、外底面は板圧痕。	回転台に粘土を置き、回転ナデで成形し、ヘラ条道具で底部の切り離しをかけ、周縁がういたところで取りあげる。だから摘んだ痕がある。
49	一国山・第1郭Ⅳ区	段状遺構A炭層落とし	土師質土器	坏	9.3	－	5	2.15	内外：橙（7.5YR6／6）	0.5～1mmの長石石英、赤色粒多。	良好	口縁部ナデにより外反。内外面はヨコナデ、外底面指圧痕、ナデ。	
50	一国山・第1郭	表土	弥生土器	甕	11	－	－	(10.2)	外：鈍い黄橙（10YR7／4）内：浅黄橙（10YR8／4）	0.5～1mmの長石石英、金雲母を含む。	良好	口縁部ヨコナデ、胴外面ヘラミガキ、胴内面上半にハケ目とナデ、下半ケズリ。胴上半には粘土紐接合痕跡（2～3cm巾）顕著。	
51	一国山・第1郭Ⅰ区	表土中	弥生土器	高坏脚部	－	－	20.8	(2.75)	外：明赤橙（2.5YR5／6）内：鈍い黄橙（10YR7／4）	0.5～1mm程の長石石英。	良好	外面ヘラミガキ、内面ヘラケズリ、端部ヨコナデ。円形透かし孔1孔確認。	赤色顔料。
52	一国山・第1郭Ⅱ区	南斜面堆積	弥生土器	壺	24.4	－	－	(9.1)	内外：橙（5YR6／6）	0.5～2mm程の長石石英、赤色土粒含む。	良好	内外面ハケ目整形、ナデ調整、口縁ヨコナデ。器厚ありぶ厚い印象。	
53	一国山・第1郭Ⅱ区	斜面	弥生土器	鉢	－	－	－	－	内外：橙（5YR6／6）	0.5～1mm程の長石石英。	良好	胴部上半部が稜をもって内傾し口縁部が「くの字」に屈曲する。口縁部ヨコナデ、胴下半内外ヘラミガキ。	胴部内面は、ケズリ→ミガキ。
54	一国山・第1郭Ⅱ区	南斜面堆積	弥生土器	装飾高坏脚部	－	－	－	－	内外：明赤褐（2.5YR5／6）	0.5～1mm程の長石石英、金雲母含む。	良好	装飾高坏脚裾部。貼り付けの凸帯が巡る。円形透かし有り。	凸帯下に連続菱形文が巡る。
55	一国山・第1郭Ⅱ区	土塁盛土内	弥生土器	装飾高坏	－	－	－	－	外：鈍い黄橙（10YR7／4）内：鈍い黄橙（10YR6／4）	0.5～1mm程の長石石英、金雲母含む。	良好	口縁が外方に大きく拡張、そこに鋸歯文、口唇部に櫛状具の刺突文。	97と同一個体か？。
56	一国山・第1郭Ⅰ区	流土中	亀山焼	甕	－	－	－	－	内外：灰白（5Y7／1）断面：暗灰（N3／0）	0.5mm程の長石石英。	良好	形態・手法は上と同様。口縁端部タタキ痕が顕著。	
57	一国山・第1郭Ⅰ区	流土内	青磁	碗	－	－	－	－	内外：明緑灰（10GY7／1）胎土：灰白（N7／0）	細かな気泡が見られる。	良好堅致	釉の厚さ0.2mm程。外面片彫り蓮弁文。	龍泉窯系。
58	一国山・第1郭Ⅱ区	造成土中	青磁	碗	－	－	－	－	内外：オリーブ黄（5Y6／3）胎土：灰白（10Y8／1）	細かな気泡が見られる。	良好堅致	釉の厚さ0.3mm程。釉にひび。外面片彫り蓮弁文。	
59	一国山・第1郭Ⅱ区	土塁盛土内	土師質土器	内耳付鍋	26.3	－	－	(4.7)	内外：鈍い褐（7.5YR6／3）	0.5～1mm程の長石多。	良好	形態手法№60と同様。内外面はハケ目、ナデ、口縁端部にヨコナデ調整。	胴口縁部外面に煤付着。口唇部には付着していない。
60	一国山・第1郭Ⅱ区	南側流土内	土師質土器	鍋	25	－	－	(7.5)	外：灰褐（10YR5／2）内：鈍い黄橙（10YR7／3）	0.5mm程の長石。	良好	それほど深くない胴部と緩やかに開く口縁部。内外面はハケ目調整、口縁部はヨコナデ調整。ハケ目痕は細荒の二種あり、外荒、内細である。	外面に煤付着。
61	一国山・第1郭Ⅱ区	斜面堆積	土師質土器	椀	9.2	－	(3.2)	3.55	外：鈍い黄橙（10YR7／4）内：浅黄橙（10YR8／4）	精良胎土。0.5～1mm程の長石石英。	良好	半球形の体部に平面を形成し底としている。体部外面はナデ調整であるが、皺が見られる。口縁部は強いヨコナデ。	体部に指押さえ痕あり。
62	一国山・第1郭Ⅱ区	南斜面堆積	土師器	小皿	6.3	－	5.15	1.1	内外：鈍い橙（5YR6／4）	精良胎土。0.5mm以下の長石石英少し。	良好	回転ナデにより形成。外底面にヘラケズリ痕。	
63	一国山・第1郭Ⅱ区	斜面堆積・造成土中	亀山焼	甕	43.7	54.4	－	(51.95)	外：灰（N6／0）内：灰白（N7／0）	0.5mm前後の長石石英。	良好	球状の胴部から急激に屈曲する口縁を持った甕。口縁部分はヨコナデ、胴外面は格子目タタキであるが、下半にはハケ目痕が残る。胴内面は当て具痕が残るも丁寧にナデ消している。しかし下半には圧痕、ハケ目痕が顕著。	口縁端部にもタタキ痕が認められる。
64	一国山・第1郭Ⅲ区	南肩斜面	土師質土器	皿	10.3	－	7.8	2.65	外：鈍い黄橙（10YR6／4）内：鈍い黄橙（10YR6／3）	0.5～1mmの長石石英。	良好	60と同様。	
65	一国山・第1郭Ⅲ区	南肩斜面	土師質土器	皿	10.4	－	7.2	2.3	外：鈍い黄橙（10YR7／4）内：鈍い橙（7.5YR6／4）	0.5～1mmの長石。	良好	60と同様。	

（　）は現存高

66	一国山・第1郭Ⅲ区	南肩斜面	土師質土器	皿	9.9	－	7.05	1.8	外：鈍い黄橙（10YR6／3） 内：鈍い褐（7.5YR6／3）	0.5～1㎜の長石石英、微砂粒。	良好	体部、口唇部と2段階のヨコナデ。外底部ナデ。	内底面の一部に、煤？付着か。
67	一国山・第1郭Ⅲ区	南斜面表土中	土師質土器	皿	10.1	－	7.5	1.8	内外：鈍い橙（7.5YR6／4）	0.5～1㎜の長石石英、赤色粒、雲母含む。	良好	外底ヘラ切り、内底ナデ調整。口縁部ヨコナデ。	
68	一国山・第1郭Ⅲ区	南肩斜面	土師質土器	皿	10.5	－	7.85	2.1	外：鈍い橙（7.5YR6／4） 内：浅黄橙（7.5YR8／4）	0.5～1㎜の長石石英。	良好	外底部の中央がやや凹み、底部と体部の稜が明瞭でなく、緩やかに立ちあがる。口縁部は外反する。	60と同様。
69	一国山・第1郭Ⅲ区	南肩斜面	土師質土器	皿	9.9	－	7.0	2.2	内外：鈍い橙（7.5YR6／4）	0.5～1㎜の長石金雲母含む。	良好	60と同様。内底面中央に、周囲を強くナデられた結果、円形の高まりが生じている。	
70	一国山・第1郭Ⅲ区	南肩斜面	土師質土器	皿	10.9	－	5.9	1.8	外：鈍い黄橙（10YR6／4） 内：鈍い橙（7.5YR6／4）	0.5～1㎜の長石石英。	良好	底部から大きく開く形態の皿。外底部にヘラキリ痕あり、あとはナデ調整。	
71	一国山・第1郭Ⅲ区	南斜面表土中	亀山焼	甕	－	－	－	－	外：灰白（5Y7／1）内：灰白（5Y8／1）断面：灰（N4／0）	0.5㎜程の長石石英。	良好	形状№63と同様。胴外面は格子目タタキ、内面はナデ、口縁部強いヨコナデでやや肥厚する。	
72	一国山・第1郭Ⅲ区		土師器	坏	9.5	－	6.6	2.55	外：鈍い橙（7.5YR6／4） 内：鈍い褐（7.5YR6／3）	0.5㎜の程の長石、微砂粒、金雲母も含む。	良好	やや深めの皿。口縁部は薄くなり、外反する。外底部は未調整か軽いナデ。他は回転ナデによる調整。	
73	一国山・第1郭Ⅲ区	下げ	土師質土器	小皿	6.2	－	4.75	1.5	外：鈍い橙（7.5YR7／4） 内：橙（7.5YR7／6）	0.5㎜以下の長石少し。	良好	外底部にはヘラ切り、内底部にはナデ、体部は全体にヨコナデ。	
74	一国山・第1郭Ⅲ区	下げ	土師質土器	小皿	5.85	－	4.7	1.05	外：鈍い黄橙（10YR7／4） 内：鈍い黄橙（10YR7／3）	精良胎土。0.5㎜以下の長石少し。	良好	外底部に板圧痕、ヘラ切り痕、体部から口縁部はヨコナデ成形。	軽く薄い。
75	一国山・第1郭Ⅲ区	下げ	須恵質土器	捏ね鉢	22.3	－	－	(5.55)	外：淡黄（2.5Y8／3） 内：灰黄（2.5YR7／2）	0.5～1㎜の長石石英多し。	普通	内外面ともヨコナデ。口縁部は上下に肥厚。注ぎ口は指２本分。	熱を受け酸化している。
76	一国山・第1郭Ⅲ区	西斜面	土師質土器	鍋	32.8	－	23.8	(10.65)	外：橙（7.5YR6／6） 内：橙（5YR6／8）	0.5～1.5㎜の長石石英、砂粒多。	良好	口縁部がやや内彎気味に立ちあがり、深めの鍋。口縁端部はヨコナデ、胴外面はハケ目、指圧痕、内面はナデ。外底面はケズリ。	外面全体に煤付着。
77	一国山・第1郭Ⅲ区	西斜面流土	土師質土器	深椀	9.5	－	－	4.0	外：浅黄橙（10YR8／3） 内：浅黄橙（10YR8／4）	精良胎土。0.5～1㎜の長石石英。	良好	半球形の椀。丸底であるが、若干の平面を形成。外面下半は未調整で粘土の裂けがみられる。内面はナデ、口縁部はヨコナデ。	均整のとれた形状と、外面の粗雑さに比べ内面のなめらかさは、内型法による成形か。
78	一国山・第1郭Ⅲ区	下げ	土師質土器	椀	9.3	－	4.2	3.95	内外：淡黄（2.5Y8／3）	0.5㎜位の長石石英、金雲母含む。	良好	体部下半は指押さえ成形、口縁部ヨコナデ。へそ椀気味。	
79	一国山・第1郭Ⅲ区	西斜面	土師質土器	小皿	9.6	－	－	1.75	外：灰（5Y5／1） 内：灰（5Y6／1）	精良胎土。0.5㎜程の長石、金雲母を含む。	良好	外底面中央に指押さえの凹みあり。口縁部はヨコナデ、残りはナデ。	
80	一国山・第1郭Ⅲ区	斜面堆積	青磁	碗	－	－	－	－	内外：オリーブ灰（5GY6／1） 胎土：灰白（5Y7／1）	細かな気泡が見られる。	良好 堅致	釉の厚さ0.3㎜程。外面片彫り蓮弁文。	龍泉窯系。
81	一国山・第1郭Ⅲ区	西斜面	磁器	小皿？	－	－	－	－	内外：灰白（5GY8／1） 胎土：灰白（10Y8／1）	黒色粒を僅少含む。	良好 堅致	底部周辺は釉が掛かっていない。外面はケズリ調整。	
82	一国山・第1郭Ⅲ区	下げ	灰釉	腰折皿	11.0	－	5.9	2.5	胎土：灰白（5Y8／1） 釉薬：灰白（10Y8／2）	精良。	良好	口縁外反。高台貼り付け。外底部に粘土塊。釉薬ひび有り。	瀬戸美濃。
83	一国山・第1郭Ⅲ区	Ｘ７地点	弥生土器	台付直口壺	3.9	7.3	－	(8.25)	内外：明赤褐（2.5YR5／6）	精良胎土。0.5～1㎜の長石、石英、金雲母多。	良好	外面はヘラミガキ、内面はナデ。	胴部下半に焼成後に穿孔。脚部内面を除いて全面に赤色顔料。
84	一国山・第1郭Ⅲ区	斜面堆積	弥生土器	器台？	－	－	－	－	外：鈍い橙（2.5YR6／4） 内：鈍い黄橙（10YR7／4）	0.5m～1㎜の長石、石英。	良好	口縁端部を下方に拡張。口縁部はヨコナデ。	口縁拡張部に鋸歯文。籾痕あり。
85	一国山・一郭Ⅲ区	斜面堆積	フイゴの羽口		－	－	－	－		0.5～4㎜長石石英多し。	良好		
86	一国山・第1郭Ⅲ区	肩落とし	弥生土器	甕	22.6	－	－	(5.7)	外：鈍い黄橙（10YR7／4） 内：鈍い橙（7.5YR6／4）	0.5～1.6㎜の長石石英多。	良好	口縁端部はヨコナデ、胴外面はハケ目、内面ケズリ。	
87	一国山・第1郭Ⅳ区	南西斜面造成土中	土師質土器	捏ね鉢	26.3	－	－	(3.4)	外：浅黄（2.5Y7／3） 内：淡黄（2.5Y8／3）	0.5～1㎜程の長石石英。	良好	口縁端部丸く収まり、内傾する。	被熱うけ軟質化。
88	一国山・第1郭Ⅳ区	南西斜面造成土中	土師質土器	小皿	8.5	－	6.4	1.75	外：鈍い黄橙（10YR6／3） 内：鈍い黄橙（10YR6／4）	0.5～1㎜の長石微砂粒含む。	良好	口縁端部強いナデでやや外反気味。全体に回転ナデ調整であるが、外底面はナデ、体部境にはヘラナデ。	
89	一国山・第1郭Ⅳ区	段状遺構A炭層落とし	弥生土器	甕	20.6	－	－	(4.4)	外：橙（5YR6／8） 内：橙（5YR6／4）	0.5～1㎜の長石石英多し。	良好	口縁端部はヨコナデにより摘み上げ肥厚。胴内面ヘラケズリ。	

（　）は現存高

90	一国山・第1郭Ⅳ区	肩斜面落とし	弥生土器	壺	20.8	—	—	(6.3)	外：橙（5YR6／6） 内：鈍い黄橙（10YR7／4）	0.5～1mm程の長石石英、金雲母含む。	良好	口縁部貼り付けで立ち上げ、ヨコナデ。頸部外面はヘラミガキ。	口縁部外面にヘラ描き鋸歯文、一部に鋸歯の内部を格子で埋めるカ所有り。
91	一国山・第1郭Ⅳ区	斜面落とし	弥生土器	壺口縁部	35.4	—	—	(5.7)	外：鈍い黄橙（10YR6／4） 内：浅黄橙（10YR8／4）	0.5～1mmの長石石英、砂礫多。	良好	口縁端部を上下に拡張。下方は貼り付け拡張。口縁部ヨコナデ、他ヘラナデ。	口縁拡張部に鋸歯文。赤色顔料。
92	一国山・第1郭Ⅳ区	落とし	弥生土器	壺頸部	—	—	—	—	内外：橙（5YR6／6）	0.5～1mm程の長石石英多。	良好	頸部外面ハケ目、上半はヨコナデが及ぶ。肩部外面はヘラミガキされ、頸部との境にヘラ描きで鋸歯文施文。肩内面ヘラケズリ。	
93	一国山・第1郭Ⅳ区	段状遺構A炭層落とし	弥生土器	長頸壺	—	—	—	—	内外：橙（5YR6／6）	0.5～1mmの長石石英多、黒雲母含む。	良好	頸がハ字に広がる長頸壺。頸外面に擬凹線、肩外面はヘラミガキ、肩内面は横方向のヘラケズリ。	
94	一国山・第1郭Ⅳ区	斜面落とし	弥生土器	壺底部	8.5	—	—	(6.8)	外：明黄褐（10YR7／6） 内：黄橙（10YR8／6）	0.5～3mmの長石石英。	良好	外面縦ヘラミガキ、後ナデ、内面ヘラケズリ。	有黒班。
95	一国山・第1郭Ⅳ区	弥生土壙1 №1	弥生土器	壺底部	9.5	—	—	(7.6)	内外：橙（5YR6／6）	0.5～3mm程の長石石英多、黒雲母含む。	良好	外面ヘラミガキ、ナデ、内面ヘラケズリ、ナデ。	有黒班。
96	一国山・第1郭Ⅳ区	斜面落とし	弥生土器	器台？	—	—	—	—	外：明黄褐（10YR7／6） 内：浅黄橙（10YR8／4）	0.5～3mmの長石石英多し、金雲母含む。	良好	緩やかに上下に開く器台の裾部か。外面縦ヘラミガキ、後ナデ、上半にはハケ目が残る。内面は上半に指圧痕あり。端部ヨコナデ。	
97	一国山・第1郭Ⅳ区	段状遺構A炭層落とし	弥生土器	装飾高坏	—	—	—	—	外：鈍い黄橙（10YR7／4） 内：浅黄橙（10YR8／4）	0.5～1mmの長石石英、金雲母も含む。	良好	ヨコナデ、口縁拡張部に鋸歯文、櫛状具による刺突文、扇状文。	
98	一国山・第1郭Ⅳ区	斜面落とし	弥生土器	装飾高坏？	—	—	—	—	外：明黄橙（10YR7／6） 内：鈍い黄橙（10YR7／4）	0.5mm程の長石石英。	良好	口縁拡張部分の破片。口縁部ヨコナデ調整。	連続菱形文施文。
99	一国山・第1郭Ⅳ区	段状遺構A炭層落とし	弥生土器	高坏	—	—	—	—	外：鈍い橙（7.5YR7／4） 内：鈍い橙（7.5YR6／4）	0.5mm程の長石金雲母を多く含む。	良好	大きくひらいた脚裾部。端部粘土貼り付け肥厚させている。外面ヘラミガキ、内面ハケ目、端部は強いヨコナデ。	裾部に鋸歯文2帯、肥厚部に擬凹線3条。
100	一国山・第1郭Ⅳ区	肩斜面礫混在砂層	弥生土器	高坏脚部	—	—	—	—	外：浅黄橙（10YR8／4） 内：橙（7.5YR6／8）	0.5～1mm程の長石石英。	良好	柱状部から開き気味。内面に絞り痕。	裾部に円形透かし孔3カ所確認。全4カ所。
101	一国山・第1郭Ⅳ区	Secサブトレ西斜面	弥生土器	高坏脚部	—	—	10.5	(3.2)	外：橙（5YR6／6） 内：橙（5YR7／6）	精良胎土。	良好	短柱部から大きく開く裾。内外面にヘラミガキ、端部ヨコナデ。	裾部に円形透かし孔4カ所確認。
102	一国山・第1郭Ⅳ区	斜面落とし	弥生土器	高坏脚部	—	—	4.55	(3.5)	内外：橙（5YR6／8）	精良胎土。0.5mm程の長石石英、金雲母若干含む。	良好	短い柱部から水平に近く広がる裾部。ヘラミガキ。	
103	一国山・第1郭Ⅳ区	段状遺構A炭層落とし	弥生土器	甕	8.0	11.3	—	(7.1)	外：橙（7.5YR6／6） 内：橙（5YR6／6）	精良胎土0.5mm程の長石石英。	良好	口縁端部が若干肥厚する小形の甕。口縁端部、頸部外面がヨコナデ、胴外面、頸部内面がヘラミガキで、胴内面はヘラケズリ横。	
104	一国山・第1郭Ⅳ区	肩斜面礫混在層	弥生土器	小形甕	—	8.7	3.1	—	内外：橙（5YR6／6）	0.5～1mmの長石石英少、微砂粒含む。	良好	胴部2／3位に最大径をもち、口縁が「く形」にひらく平底の甕。口縁部ヨコナデ、外面はヘラナデ、内面は上半にハケ目。	底部に禾本科植物の圧痕。
105	一国山・第2郭	斜面	備前焼	すり鉢	—	—	—	—	外：鈍い赤褐（5YR5／3） 内：鈍い橙（5YR6／4）	0.5mm以下の長石石英少し。	良好 堅致	ろくろ整形・調整。摺り目1条確認されるのみで疎。	注ぎ口あり。
106	一国山・第2郭	南西斜面表土流土中	備前焼	壺	—	—	—	—	内外：灰赤（2.5YRB5／2）	0.5～1mmの長石石英。	良好 堅致	口縁部折り返し、玉縁を造る。ナデ調整。	ゴマ釉掛り。
107	一国山・第2郭	斜面	須恵質土器	捏ね鉢	—	—	—	—	外：青灰（5B6／1）内：緑灰（5G5／1） 口縁部：灰（N4／0）	0.5～1mmの長石石英。ザラザラ感がある。	良好	口縁端部が上下に肥厚、丸く収まる。内外面ナデ調整。	口縁部黒色を帯びる。東播系須恵器。
108	一国山・第2郭	南斜面表土流土中	土師質土器	鍋	—	—	—	—	外：鈍い橙（7.5YR7／3） 内：浅黄橙（10YR8／4）	0.2～0.5mmの長石石英粒。	良好	口縁が短く外反する浅めの堝。口縁端部ヨコナデ、胴内面ハケ目調整。	外面には煤付着。
109	一国山・第3郭	流土	須恵器	短頸壺	—	—	—	—	内外：灰（N6／0） 段面：赤褐（10R4／3）	0.5～1mmの長石。	良好 堅致	内面ろくろナデ、外面ナデ。	
110	一国山・第3郭	斜面石敷きそば	弥生土器	壺？	—	—	—	—	内外：橙（5YR6／6）	0.5～1mmの長石、石英多し。	良好	口縁部粘土継ぎ足し「く」形に屈曲する。内外面ヘラミガキ、ヨコナデ。 内外面に同一工具による施文（刺突、波状文）あり。	
111	一国山・第3郭	流土（箱式石棺付近）	弥生土器	高坏脚部	—	—	—	—	内外：橙（5YR6／6）	精良胎土。0.5～1mm砂礫、赤色粒若干。	良好	外面ヘラナデ、内面絞り、ハケ目。	赤色顔料一部残存。

（　）は現存高

112	一国山古墳群	一国山１号墳 周溝内	土師器	鉢	9.8	9.9	－	(5.25)	外：鈍い橙（5YR6／4） 内：鈍い橙（5YR6／4）	0.5～1㎜の長石、砂粒含む。	良好	丸底気味の鉢、口縁部強いナデで外反。胴部外面は横のヘラミガキ、内面はナデ調整。	
113	一国山古墳群	一国山１号墳 周溝内	土師器	椀形土器	10.6	－	7.9	5.55	内外：橙（5YR6／6）	0.5～2㎜程の長石、石英多し。	良好	ボール状の器形、口縁部やや外反。口縁部ヨコナデ、内外面ヘラナデで平滑化。	
114	一国山古墳群	一国山１号墳 周溝内	土師器	椀形土器	－	－	2.9	(4.6)	外：鈍い黄橙（10YR7／4） 内：橙（5YR6／6）	0.5～2㎜の長石石英多し。	良好	球形の体部にやや平坦を意識した底部。内外面に荒いハケ目、後ヘラナデ。内底面には放射状に板圧痕と板目。	口縁部はもう少し立ちあがり、外反する可能性有り。
115	一国山古墳群	一国山１号墳 周溝内	土師器	直口壺？	－	15.45	－	(11.05)	内外：橙（5YR6／8）	精良な胎土。0.5～1㎜の長石少し。	良好	やや扁平な球形。胴外面全体ヘラナデ、胴内面ヘラケズリ。	
116	一国山古墳群	一国山１号墳 周溝内	土師器	甕	15.2	－	－	(11.5)	外：浅黄（2.5Y7／4） 内：橙（5YR6／6）	1～2㎜の長石石英、砂礫多し。	良好	口縁端部やや外反。口縁部ヨコナデ、胴外面ヘラナデ、胴内面ヘラケズリ。	胴中位に煤付着。有黒班。
117	一国山古墳群	一国山１号墳 周溝内	土師器	甕	13.5	21.95	－	(24.6)	内外：鈍い黄橙（10YR6／4）	0.5～2㎜の長石石英含む。	良好	長胴の体部にくの字に外反する口縁が付く。口縁部ヨコナデ、胴外面ヘラミガキとナデ、胴内面はケズリ。	下半煤付着。有黒班。
118	一国山古墳群	一国山１号墳 周溝内	土師器	椀形土器	15.7	－	－	(3.4)	外：橙（5YR6／6） 内：橙（5YR7／6）	精良胎土。0.5㎜程の長石少し。	良好	口縁がやや内傾気味の椀。口縁部ヨコナデ、体部内外面ナデ。	底部欠損のため脚部があるかは不明
119	一国山古墳群	一国山１号墳 周溝内	土師器	高坏	13.4	－	－	(10.3)	内外：橙（5YR7／6）	0.5㎜程の長石赤色粒含む。	良好	口縁がやや内傾し丸味を持った坏部とやや膨らみ気味の柱部。脚接合部にハケ目、柱部外面に縦のヘラナデ、内面に絞り痕、杯部ヘラナデ、ヨコナデ調整。	坏部下半に赤色顔料残存。
120	一国山古墳群	一国山１号墳 周溝内	土師器	高坏	－	－	－	(8.05)	外：橙（5YR6／8） 内：橙（5YR7／6）	0.5～1㎜程の長石石英、赤色土粒含む。	良好	脚柱部挿仕込み。接合部分にハケ目、その他はナデ、脚部内は絞り痕。	
121	一国山古墳群	一国山１号墳 周溝内	土師器	高坏	22.9	－	－	(10.4)	内外：橙（5YR6／6）	0.5㎜程の長石石英少し、赤色土粒含む。	良好	やや外膨らみ気味に立ちあがり、口縁が外反する。内外にハケ目がみられるが、のちナデ。	坏外底に刺突痕あり。有黒班。
122	一国山古墳群	一国山１号墳 周溝内	土師器	高坏	－	－	13.3	(7.1)	内外：黄橙（7.5YR7／8）	0.5㎜程の長石石英、赤色土粒若干混在。	良好	筒状の中空脚部から裾がラッパ状に開く。筒部内面絞り痕、裾部内面荒いハケ目横。赤色顔料？	赤色顔料？。
123	一国山古墳群	一国山１号墳 周溝内	須恵器	高坏	8.8	－	7.8	8.5	外：暗灰（N3／0） 内：灰（10Y7／1）	0.5㎜以下の長石少し。	堅致	体部と口縁立上り部は強くナデられ段を形成。脚部には三方透かし、端部は丸く収まり、浅い沈線１条が巡る。体部下半はヘラきり痕。	体部下半に把手痕あり、おそらく１対。
124	一国山古墳群	一国山１号墳 周溝内	須恵器	ハソウ	8.3	11.5	－	10.75	外：灰（N6／0） 内：灰白（N7／0）	0.5～1㎜の長石石英少し。	堅致	ろくろ成形、ナデ調整。胴下半部内面は指押さえ、外面はヘラ調整。	頸部に櫛描波状文。
125	一国山古墳群	一国山２号墳 石槨内	須恵器	高台付坏？	－	－	－	－	外：灰白（2.5Y8／1） 内：灰白（2.5Y8／2）	0.5～1㎜の長石石英。	やや 不良	貼り付け高台、内外ヨコナデ。	
126	一国山古墳群	一国山２号墳 石槨内	須恵器	高台付坏	－	－	－	－	外：灰白（2.5Y8／1） 内：灰白（5Y8／1）	0.5㎜程の長石含む。	良好		
127	一国山古墳群	溝1	弥生土器	壺	－	16.3	6.1	(11.5)	外：橙（5YR6／6） 内：浅黄（2.5Y7／3）	0.5～1㎜の長石石英多。	良好	胴部最大径が中位にあり、均整のとれた形状、底は平坦を意識している。外面はハケ目のち横のヘラミガキ、内面は中位はケズリ。	底部に焼成前の穿孔。頸部は打ち欠き。
128	一国山古墳群	その他の遺物	須恵器	高台付壺？	－	－	12.7	(2.15)	外：灰（N6／0） 内：灰（N5／0）	0.5㎜程の長石。	良好	高台貼り付け、外方に踏ん張る。ヨコナデ調整。	
129	一国山古墳群	その他の遺物	須恵器	壺	13.9	－	－	(7.1)	内外：灰（N6／0）	0.5～1㎜の長石。	良好	口縁端部が上方に摘み上げられ肥厚する。胴内面にハケ目痕有り。	
130	一国山古墳群	その他の遺物	須恵器	高台付坏	12.3	－	4.3	3.95	内外：灰（N6／0）	0.5～1㎜の長石石英、黒色粒含む。	良好	ろくろ成型。内底面ナデ、外底面：ケズリ。	張り付け高台。
131	一国山古墳群	その他の遺物	須恵器	高台付坏	－	－	10.7	(1.4)	外：灰（7.5Y6／1） 内：灰白（5Y7／1）	0.5～1㎜の長石石英多し。	良好	ろくろ成形、ナデ調整。貼付け高台、外底部ヘラ切り痕。	外底部ヘラ記号「〆」。

（　）は現存高

金属製品

掲載番号	出土地区	遺構・土層名	器種	法量（mm）			重量（g）	材質	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
M 1	南坂 8 号墳	主体部 2	鉄鏃	全長：136.5刃部：64.5茎部72.0	刃部：27.5茎部：7.0	刃部：2.0茎部：4.5	12.67	鉄	
M 2	南坂 8 号墳	主体部 2	鉄鏃	全長：130.5刃部：66.5茎部84.0	刃部：30.5茎部：7.0	刃部：2.5茎部：4.0	16.68	鉄	
M 3	一国山城・第 1 郭Ⅳ区	P-2	?	(168.0)	6.4	6.5	28.76	鉄	折損。
M 4	一国山城・第 1 郭Ⅳ区	P-2b	鍬先	(33.5)	(51.0)	24.0	19.32	鉄	破損。
M 5	一国山城・第 1 郭Ⅳ区	P-2	?	66.6	5.5	5.8	17.03	鉄	
M 6	一国山城・第 1 郭Ⅳ区	段状遺構AP-6	鍬先	(64.0)	110.5	16.0	138.92	鉄	
M 7	一国山城・第 1 郭Ⅳ区	段状遺構AP-6	?	26.0	44.0	32.5	18.33	鉄	木柄等の留め具?。
M 8	一国山城・第 1 郭Ⅲ区	段状遺構A	鑿？	(102.5)	8.0	6.0	26.79	鉄	
M 9	一国山城・第 1 郭Ⅳ区	段状遺構A	鏃	(111.5)	9.0	6.5	32.48	鉄	折損。
M10	一国山城・第 1 郭Ⅳ区	段状遺構A	鏃	(116.0)	15.0	7.5	29.40	鉄	
M11	一国山城・第 1 郭Ⅲ区	段状遺構AP-9	刀子？	(128.5)	8.5	6.0	20.34	鉄	一部折損。
M12	一国山城・第 1 郭Ⅳ区	段状遺構B	釘	(104.0)	9.0	9.5	33.54	鉄	折損。
M13	一国山城・第 1 郭Ⅳ区	段状遺構A	釘	(104.5)	7.5	4.5	21.21	鉄	折損。
M14	一国山城・第 1 郭Ⅲ区	段状遺構A	鎹	92.0	7.0	7.0	27.45	鉄	一部折損。
M15	一国山城・第 1 郭Ⅲ区	段状遺構A	釘か鋲	(39.5)	8.5	5.5	13.32	鉄	一部折損。
M16	一国山城・第 1 郭Ⅳ	段状遺構トレンチ内	釘か鋲	(20.0)	頭径23.4	－	5.58	鉄	
M17	一国山城・第 1 郭Ⅳ区	段状遺構トレンチ内	釘か鋲	(18.0)	頭径21.5	－	11.35	鉄	
M18	一国山城・第 1 郭Ⅳ区	段状遺構A	釘か鋲	(41.0)	7.0	7.0	6.77	鉄	折損、木質残存。
M19	一国山城・第 1 郭Ⅳ区	段状遺構A	鎌	42.0	3.5	－	85.46	鉄	折損。
M20	一国山城・第 1 郭	腐植土おとし	不明	(105.8)	35	2.0	40.87	鉄	一部折り返し有り。
M21	一国山城・第 1 郭 1 区	東斜面	釘	(48.0)	6.5	5.0	4.12	鉄	折損。
M22	一国山城・第 1 郭Ⅱ区	斜面	釘	(58.0)	13.0	7.5	31.62	鉄	頭叩きつぶれている。
M23	一国山城・第 1 郭Ⅱ区	斜面	釘	(85.5)	11.5	－	37.44	鉄	
M24	一国山城・第 1 郭Ⅱ区	斜面	楔	(69.2)	15.0	5.5	18.58	鉄	
M25	一国山城・第 1 郭Ⅲ区	西斜面	釘	(44.0)	12.8	6.0	14.51	鉄	折損。
M26	一国山城・第 1 郭Ⅲ区	西斜面	釘	(44.8)	7.5	8.6	12.81	鉄	折損。
M27	一国山城・第 1 郭 1 区	流土中	釘	(54.0)	6.0	5.0	12.05	鉄	折損。
M28	一国山城・第 1 郭Ⅰ区	流土中	釘	(40.0)	6.5	4.2	4.77	鉄	折損。
M29	一国山城・第 1 郭Ⅱ区	南斜面	釘	(56.5)	9.0	7.0	17.03	鉄	折損。
M30	一国山城・第 1 郭 1 区	東斜面	楔	65.0	19.7	5.0	16.96	鉄	
M31	一国山城・第 1 郭Ⅱ区	南斜面	釘	32.5	2.5	2.0	0.67	鉄	
M32	一国山城・第 1 郭Ⅲ区	斜面堆積	釘	27.8	3.0	3.0	0.95	鉄	
M33	一国山城・第 1 郭Ⅲ区	斜面堆積	釘	(25.5)	3.5	3.5	1.54	鉄	先端折損。

（　）は現存長

M34	一国山城・第１郭Ⅲ区	南斜面造成土中	釘	(47.0)	6.0	5.5	6.38	鉄	折損。
M35	一国山城・第１郭Ⅲ区	南斜面造成土中	釘	(33.5)	6.5	5.0	3.97	鉄	折損。
M36	一国山・第１郭Ⅲ区	西斜面	鏃	161.0	17.0	6.6	40.52	鉄	茎一部欠損。
M37	一国山城・第１郭Ⅲ区	西斜面	鏃	(160.0)	8.0	5.5	35.53	鉄	茎一部欠損。
M38	一国山城・第１郭Ⅲ区	下げ	鏃	(130.2)	9.6	8.0	31.54	鉄	
M39	一国山城・第１郭Ⅲ区	下げ	鏃	(114.7)	8.0	8.0	29.91	鉄	
M40	一国山城・第１郭Ⅲ区	斜面堆積	?	45.5	19.0		10.71	鉄	穴の直径：5.5×5。
M41	一国山城・第１郭Ⅲ区	下げ	鏃	(59.2)	36.2	8.0	19.28	鉄	
M42	一国山城・第１郭Ⅲ区	下げ	釘	(58.0)	5.0	6.0	6.04	鉄	頭折り返し有り。
M43	一国山城・第１郭Ⅲ区	西斜面	釘	(37.5)	4.5	3.0	1.93	鉄	折損。
M44	一国山城・二郭	表土中	釘	(65.6)	7.6	6.0	13.82	鉄	折損。
M45	一国山城・二郭	表土中	釘	(47.5)	4.0	4.0	2.85	鉄	折損。
M46	一国山城・二郭	表土中	釘	(42.5)	4.0	4.0	10.19	鉄	先端欠損。
M47	一国山城・二郭	南西斜面	鏃	(175.5)	6.5	6.6	41.35	鉄	一部折損。
M48	一国山城・２郭	斜面堆積	古銭	径：2.45	－	1.2	3.36	銅	寛永通宝。
M49	一国山城・２郭	斜面堆積	古銭	径：2.48	－	1.1	2.86	銅	寛永通宝（新）。
M50	一国山城・第１郭Ⅲ～Ⅳ	セクション土手	古銭	－	－	－	－	銅	元豊通寶、行書。
M51	一国山城・第１郭	表採	古銭	径：2.41	－	1.0	1.46	銅	元豊通寶、行書。
M52	一国山城・第１郭Ⅱ区	斜面堆積	古銭	径：2.45	－	0.8	1.77	銅	治平元寶、篆書。
M53	一国山城・第１郭Ⅲ区	表土中	古銭	－	－	－	－	銅	熙寧元寶、真書。
M54	一国山城・第１郭	段状遺構A 床面上層	古銭	－	－	－	－	銅	元祐通寶、行書。
M55	一国山城・第１郭Ⅳ	表土中	古銭	径：2.33	－	1.2	2.49	銅	治平元寶or 通寶、篆書。
M56	一国山城	表採　腐植土中	古銭	径：2.42	－	1.1	1.59	銅	元豊通寶？行書。
M57	一国山古墳群	一国山１号墳石棺 1	直刀	737.0	刃部：27.0 茎部：18.0	刃部：6.5 茎部：5.5	－	鉄	
M58	一国山古墳群	一国山１号墳石棺 1	直刀	804.0	刃部：26.5 茎部：19.5	刃部：6.0 茎部：4.0	－	鉄	茎部に孔あり。 木質残る。
M59	一国山古墳群	一国山１号墳石棺 ２墓壙内	胡籙	－	－	－	－	鉄	
M60	一国山古墳群	一国山１号墳石棺 ２周囲	鏃	(35.0)	7.4	2.5	1.94	鉄	
M61	一国山古墳群	一国山１号墳石棺 ２周囲	鏃	(49.2)	8.0	3.0	2.68	鉄	
M62	一国山古墳群	一国山１号墳石棺 ２周囲	鏃	(141.5)	12.5	5.0	16.04	鉄	
M63	一国山古墳群	一国山１号墳石棺 ２周囲	鏃	(153.8)	10.5	5.5	17.46	鉄	
M64	一国山古墳群	一国山１号墳石棺 ２周囲	鏃	(95.0)	7.0	4.0	6.87	鉄	
M65	一国山古墳群	一国山１号墳石棺 ２周囲	鏃	(135.5)	5.5	4.5	13.48	鉄	

（　）は現存長

M66	一国山古墳群	一国山１号墳石棺２周囲	鏃	(80.0)	6.5	4.0	8.07	鉄	
M67	一国山古墳群	一国山１号墳石棺２周囲	鏃	(71.7)	9.5	8.0	7.25	鉄	茎に木質残存。
M68	一国山古墳群	一国山１号墳石棺２周囲	胡籙金具	(31.0)	12.5	1.0	1.53	鉄	
M69	一国山古墳群	一国山１号墳石棺２埋土内	鋤先	(54.0)	2.05	2.5	14.09	鉄	
M70	一国山古墳群	一国山１号墳石棺２埋土内	胡籙金具	56.0	－	5.0	5.90	鉄	
M71	一国山古墳群	一国山１号墳石棺２埋土内	胡籙金具	68.5	－	6.0	5.92	鉄	
M72	一国山古墳群	一国山１号墳石棺２埋土内	胡籙金具	22.6	25.5	1.8	4.27	鉄	
M73	一国山古墳群	一国山１号墳石棺２埋土内	胡籙金具	21.3	27.4	3.8	2.56	鉄	
M74	一国山古墳群	一国山１号墳石棺２埋土内	飾り金具？	(32.0)	15.5	1.0	1.43	鉄	
M75	一国山古墳群	一国山１号墳石棺２墓壙内	胡籙	(87.0)	2.4	1.5	12.84	鉄	
M76	一国山古墳群	一国山１号墳石棺２墓壙内	胡籙	(57.8)	2.3	0.8	6.59	鉄	
M77	一国山古墳群	一国山１号墳石棺２墓壙内	胡籙	－	23.0	1.0	4.04	鉄	
M78	一国山古墳群	一国山１号墳周溝内	鉄鐸	(36.0)	36.0	1.5	21.4	鉄	
M79	一国山古墳群	一国山２号墳石槨内	釘	(104.0)	6.5	6.5	20.58	鉄	下半に木質痕有り。
M80	一国山古墳群	一国山２号墳石槨内	釘	(61.0)	6.6	6.0	10.82	鉄	
M81	一国山古墳群	一国山２号墳石槨内	釘	(80.0)	9.5	6.0	18.09	鉄	下半に木質痕。
M82	一国山古墳群	一国山２号墳石槨内	釘	(59.0)	5.5	5.5	10.31	鉄	
M83	一国山古墳群	一国山２号墳石槨内	釘	(67.0)	7.2	6.5	10.49	鉄	中位に木質痕。
M84	一国山古墳群	一国山２号墳石槨内	釘	(60.5)	7.5	6.5	10.36	鉄	一部に木質痕。
M85	一国山古墳群	石棺３	鏡	－	－	中心付近：1.0縁：5.0	－	銅	
M86	一国山古墳群	石棺3	鉋	(38.0)	9.0	3.0	3.37	鉄	
M87	一国山古墳群	石棺7	鉋	(218.0)	11.7	4.0	33.39	鉄	
M88	一国山古墳群	墳丘流土中	鏃	(171.0)	12.3	7.0	61.68	鉄	
M89	一国山古墳群	流土中	U字形鋤先	(111.0)	34.0	2.3	49.49	鉄	鋤先の側縁部。
M90	一国山古墳群	流土中	U字形鋤先	(102.5)	30.5	2.0	35.99	鉄	鋤先の側縁部。
M91	一国山古墳群	流土中	U字形鋤先	－	31.5	2.4	11.14	鉄	鋤先の先。
M92	一国山古墳群	流土中	鉄鐸	(72.0)	－	2.0	33.75	鉄	一枚の板を巻いて製作。
M93	一国山古墳群	流土中	鏃	(60.0)	35.0	2.2	16.66	鉄	
M94	一国山古墳群	石棺８西斜面流土中	鏃	(165.0)	10.0	7.5	44.29	鉄	
M95	一国山古墳群	石棺5北	鏃	(117.7)	9.0	5.2	30.17	鉄	

（　）は現存長

玉類

掲載番号	出土地区	遺構・土層名	器種	法量（mm）				重量（g）	材質	備考
				最大長	最大幅	最大厚	孔径			
J 1	南坂 8 号墳	南坂 8 号墳主体部	管玉	(9.3)	5.0	5.0	2.5	0.08	緑色凝灰岩(グリーンタフ)	
J 2	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	管玉	33.0	5.9	4.0	2.5	0.75	碧玉	
J 3	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	管玉	35.0	4.6	4.9	2.5	(0.7)	碧玉	
J 4	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	管玉	(22.6)	6.5	5.5	1.5	(0.41)	緑色凝灰岩(グリーンタフ)	
J 5	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	管玉	(21.6)	5.4	4.5	1.8	(0.24)	緑色凝灰岩	
J 6	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	管玉	(15.1)	6.0	5.8	1.5	(0.21)	緑色凝灰岩(グリーンタフ)	
J 7	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	勾玉	23.0	14.5	8.5	3.0	2.57	蛇紋岩	
J 8	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	7.6	6.6	7.7	1.5	0.39	ガラス	
J 9	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	5.9	9.0	7.8	1.6	0.32	ガラス	
J10	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	5.0	8.5	7.5	1.5	0.32	ガラス	
J11	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	7.0	7.8	8.0	1.6	0.34	ガラス	
J12	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	6.5	6.8	7.8	長径:2.4短径:1.5	0.23	ガラス	
J13	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	6.0	8.2	8.5	1.6	0.37	ガラス	
J14	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	5.0	8.0	8.0	1.4	0.28	ガラス	
J15	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	5.4	8.3	7.8	1.6	0.29	ガラス	
J16	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	5.7	9.1	7.9	1.4	0.37	ガラス	
J17	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	5.6	8.0	7.6	長径:1.8短径:1.0	0.40	ガラス	
J18	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	5.5	7.8	7.7	1.6	0.25	ガラス	
J19	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	5.0	7.4	7.1	2.4	0.20	ガラス	
J20	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	6.0	7.2	6.8	1.5	0.25	ガラス	
J21	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	4.4	7.4	7.0	1.6	0.22	ガラス	
J22	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	4.2	7.6	7.4	1.4	0.19	ガラス	
J23	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	6.0	7.5	7.5	1.0	0.33	ガラス	
J24	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	4.9	7.0	6.5	1.7	0.21	ガラス	
J25	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	5.4	7.0	6.4	1.2	0.24	ガラス	
J26	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	4.4	7.1	7.1	1.6	0.20	ガラス	
J27	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	4.3	7.0	6.2	1.6	0.16	ガラス	
J28	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	4.5	6.5	6.0	長径:2.5短径:1.5	0.15	ガラス	
J29	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	4.5	7.0	5.5	1.5	0.16	ガラス	
J30	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	4.5	5.8	5.5	長径:1.8短径:1.5	0.13	ガラス	
J31	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	5.4	4.8	4.8	長径:1.6短径:1.0	0.10	ガラス	
J32	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	5.6	5.0	5.0	1.8	0.13	ガラス	
J33	一国山古墳群	一国山 1 号墳石棺 1	玉	4.4	3.6	4.0	1.0	0.06	ガラス	

（　）は現存長・現存部分の重量

玉類

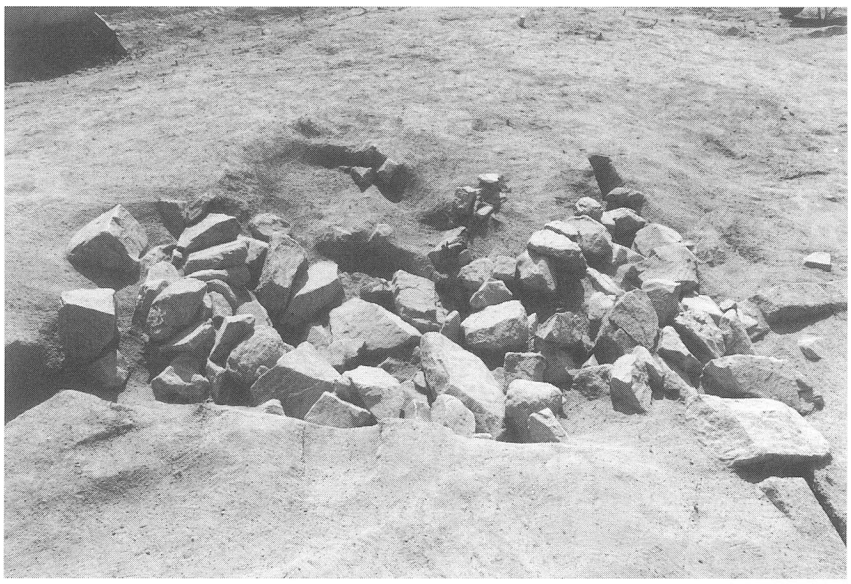
J34	一国山古墳群	一国山３号墳石棺３	管玉	35	7	5.6	2.6	1.57	碧玉	
J35	一国山古墳群	一国山３号墳石棺３	管玉	19.4	5.5	4.5	5.5	(0.45)	碧玉	

石製品

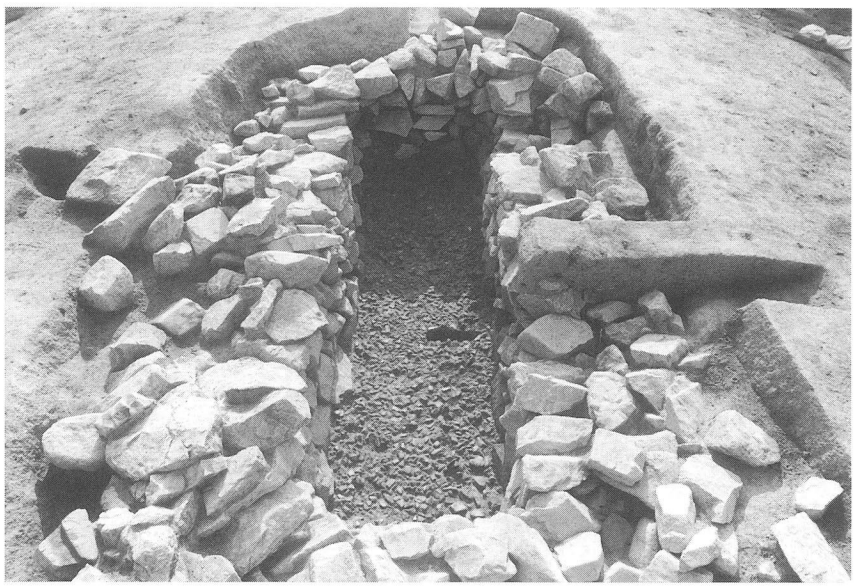
掲載番号	出土地区	遺構・土層名	器形	計測値（cm）			重量（g）	石材	備考
				最大長	最大幅	最大厚			
S１	一国山城一郭Ⅱ区	南側流土内	硯	12.35	海：6.0 陸：6.5	厚さ：1.65 高さ：1.95	237.00	粘板岩	淡茶褐色。
S２	一国山城Ⅱ区	南側流土内	砥石	13.5	3.15	2.60	267.95	凝灰岩	
S３	一国山城一郭Ⅱ区	斜面堆積	砥石	7.55	3.20	1.50	50.26	粘板岩	破損。
S４	一国山城一郭Ⅳ区	段状遺構A炭層直上	砥石	13.75	2.95	2.20	169.44	粘板岩	
S５	一国山城一郭Ⅲ区	西斜面流土内	砥石	11.905	5.20	1.00	87.71	粘板岩	
S６	一国山城二郭	表土内	砥石	3.90	3.05	2.80	47.68	凝灰岩	サイコロ状。
S７	一国山城	流土中	石鏃	3.35	2.05	0.30	2.15	サヌカイト	
S８	一国山古墳群	一国山１号墳周溝	紡錘車	4.50	—	1.60	37.10	蛇紋岩	孔径６㎜。
S９	一国山古墳群	一国山３号墳箱式石棺３	石杵	10.50	5.70	4.30	396.0	凝灰岩	

図版 1

南坂 8 号墳遠景
（西から）



主体部検出状況
（東から）

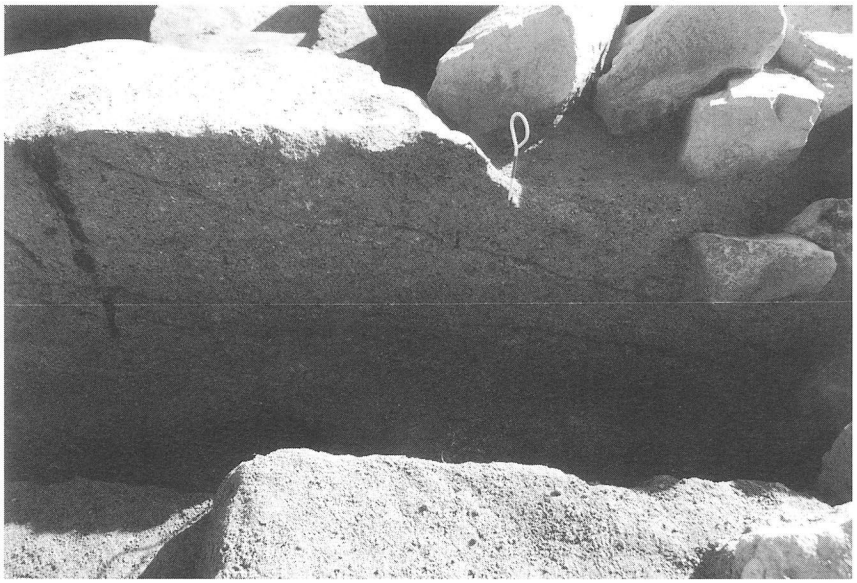


主体部床面
（北西から）

図版 2

主体部北西壁
（南東から）

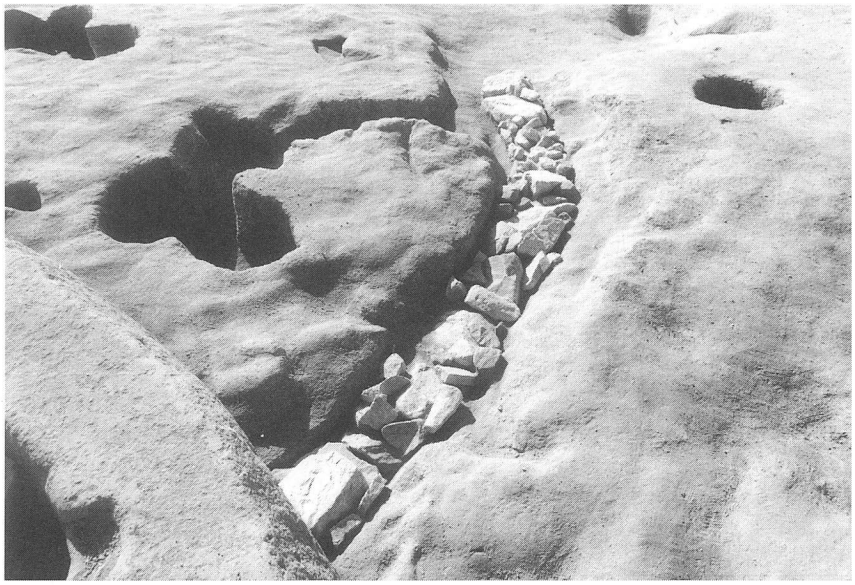
主体部床面西半
（南西から）



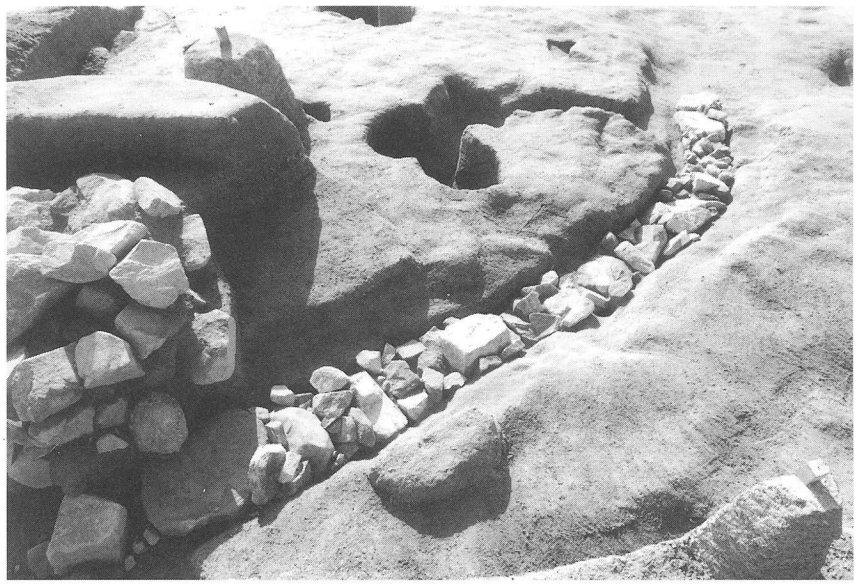
後方部北側断面
（西から）

図版 3

後方部南側断面
（西から）



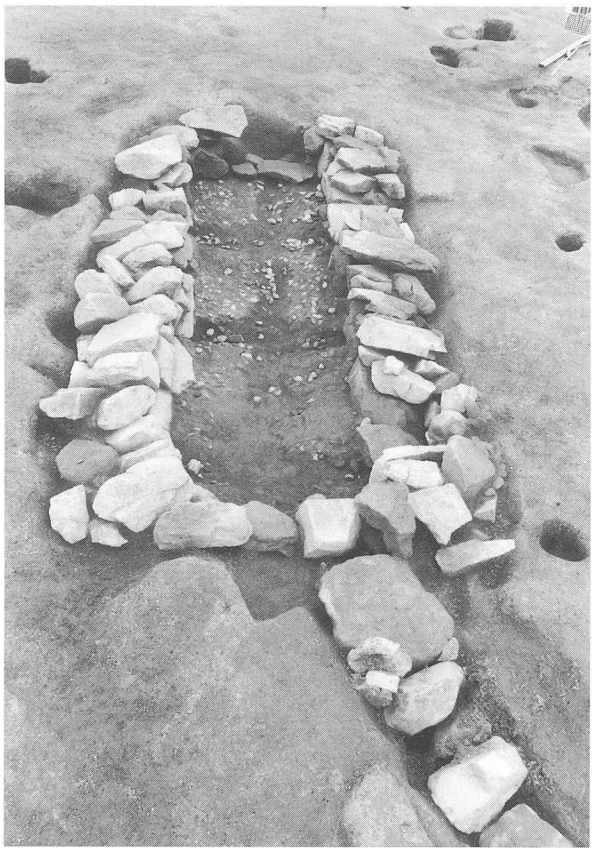
排水溝上面
（北から）



排水溝・主体部接続部
（北から）

図版 4

排水溝・主体部接続部（拡大）
（北西から）

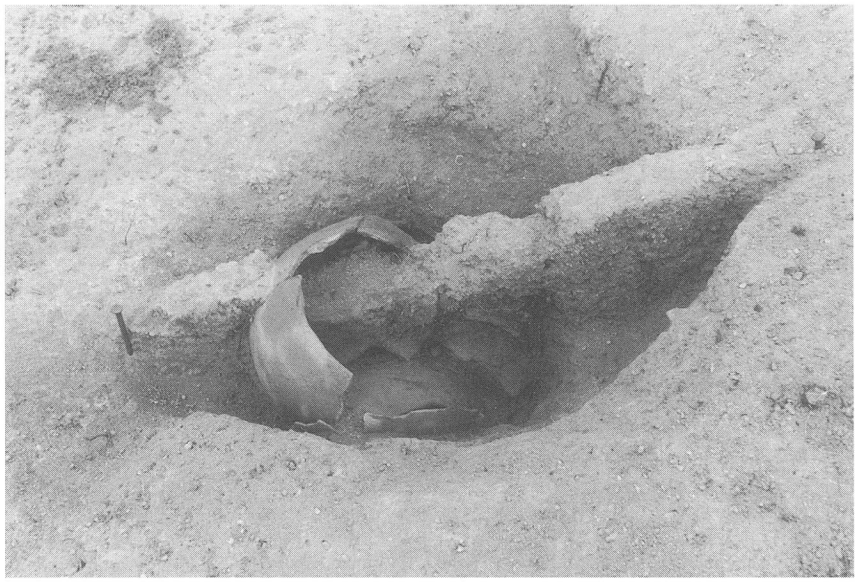


主体部墓壙
（北西から）

主体部墓壙掘上り
（南東から）

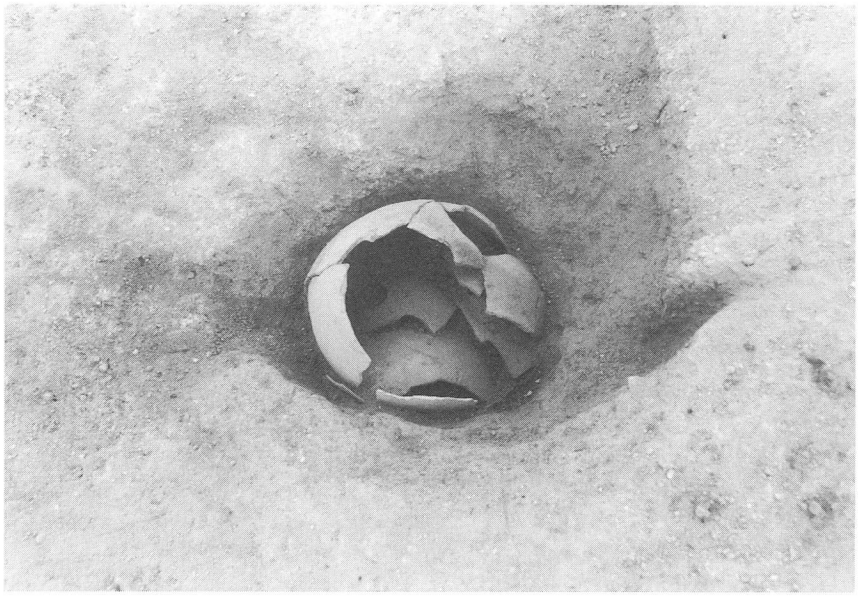
P 1 土器出土状況
（北から）

南坂 8 号墳墳丘
築造以前遺構面
（北西から）

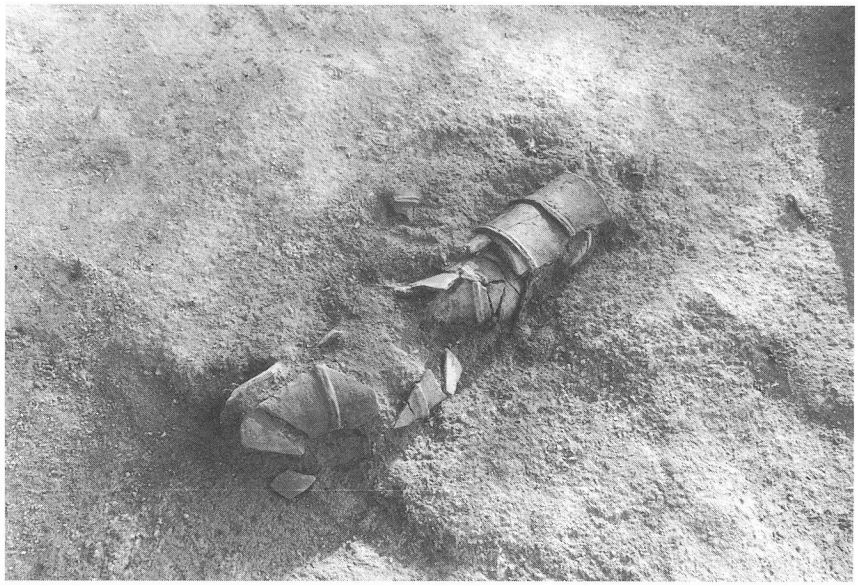


土器棺墓断面
（南から）

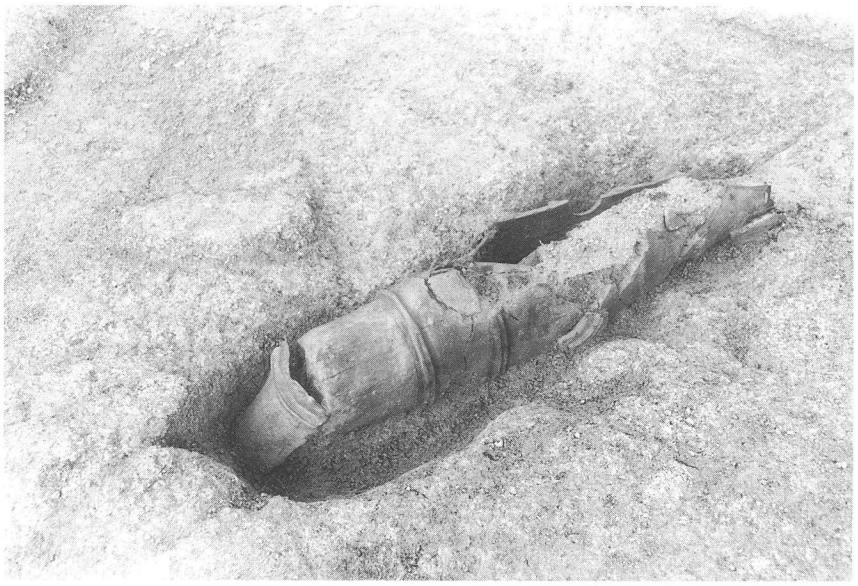
図版 6



土器棺検出状況
（北から）

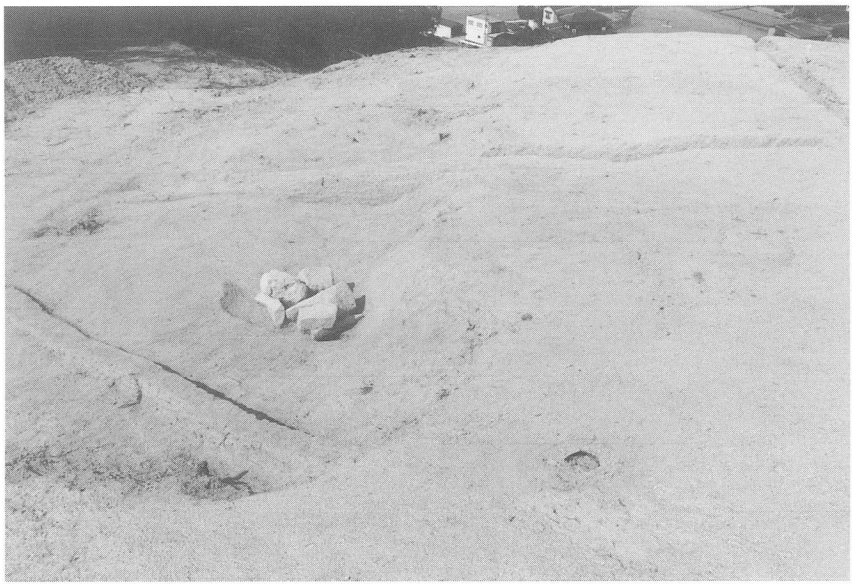


埴輪棺検出状況
（北東から）



埴輪棺埋納状況
（南から）

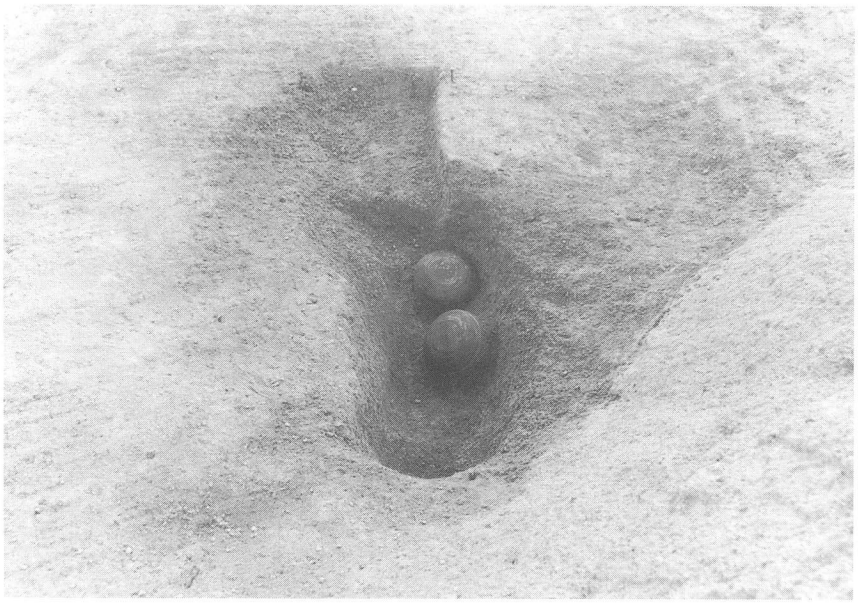
石蓋土壙墓 1
遺物出土状況
（南西から）



石蓋土壙墓 2 ・土器棺墓
検出状況
（南東から）

石蓋土壙墓 2 断面
（南から）

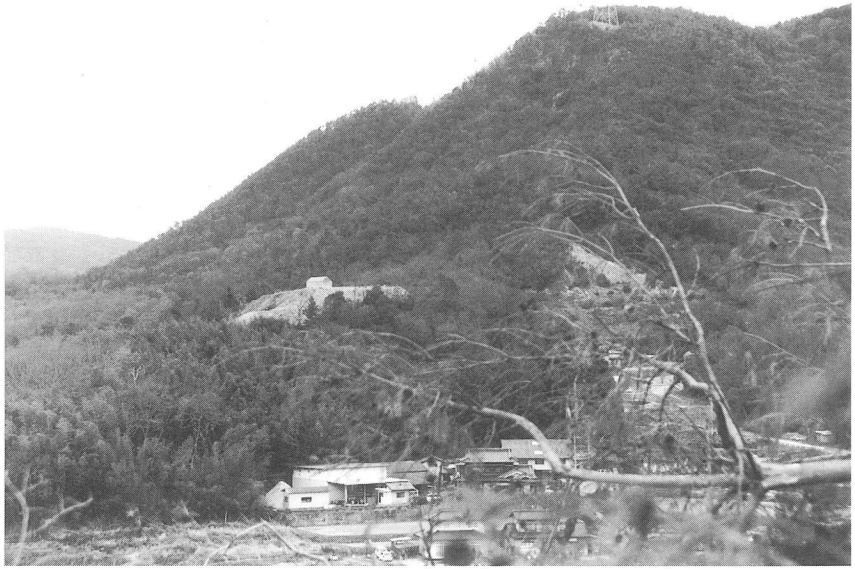
図版 8



石蓋土壙墓 2
（東から）

主体部 2
（北東から）

主体部及び主体部 2
（南東から）



一国山城跡遠景
（南から）

一国山城跡から
見た冠山城跡
（北東から）

第 4 郭全景
（北西から）

図版10

第１郭サブトレンチ
（Ｓ－Ｔ）土層断面
（南から）

第１郭サブトレンチ１
（Ｑ－Ｒ）土層断面
（西から）

第１郭サブトレンチ２（Ｑ－Ｐ）土層断面
（東から）

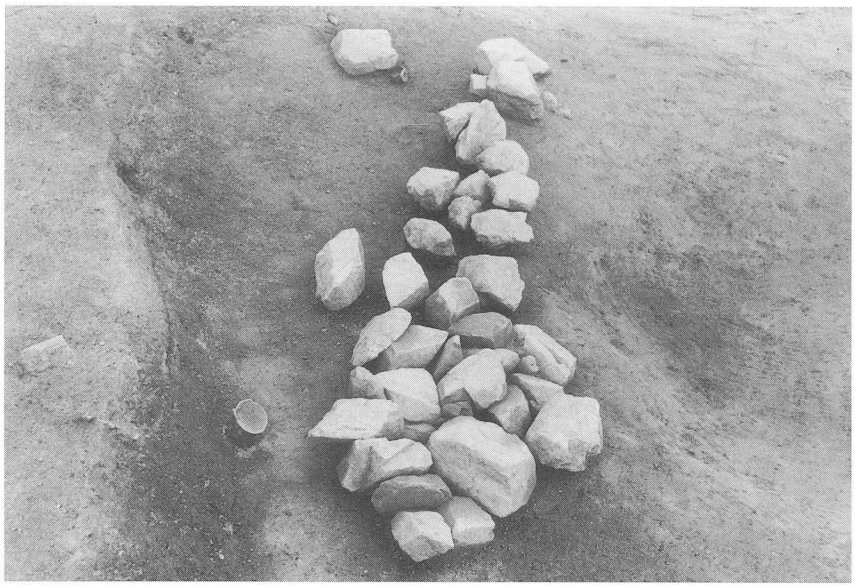
P１・P２全景
（北から）

第１郭サブトレンチ３
（M－N）土層断面
（南西から）

南北トレンチ
（E－F）土層断面
（東から）

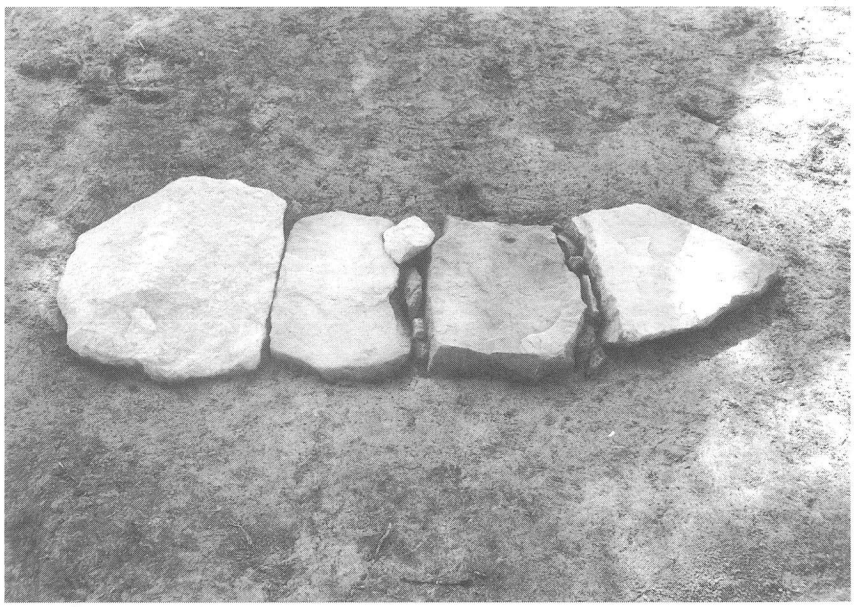
図版12

段状遺構A・B全景
（南から）



段状遺構B集石４
（南から）

段状遺構A・B調査状況
（北から）



一国山１号墳石棺１
蓋石検出状況
（東から）

一国山１号墳石棺１半裁
（北東から）

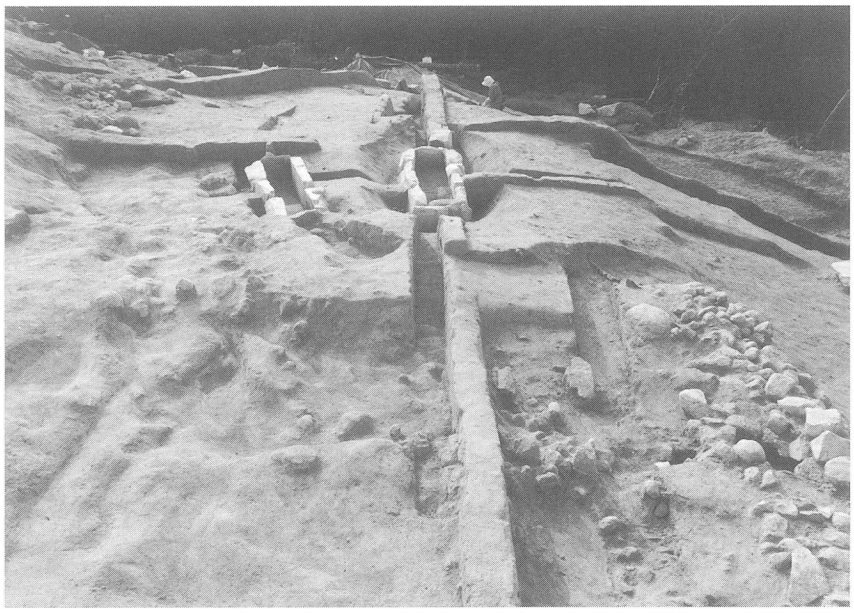
一国山１号墳石棺１
鉄刀・玉類出土状況
（南から）

図版14

一国山１号墳石棺２
胡籙出土状況
（北から）

一国山１号墳石棺２
胡籙出土状況（拡大）
（東から）

一国山１号墳
周溝内遺物出土状況
（東から）



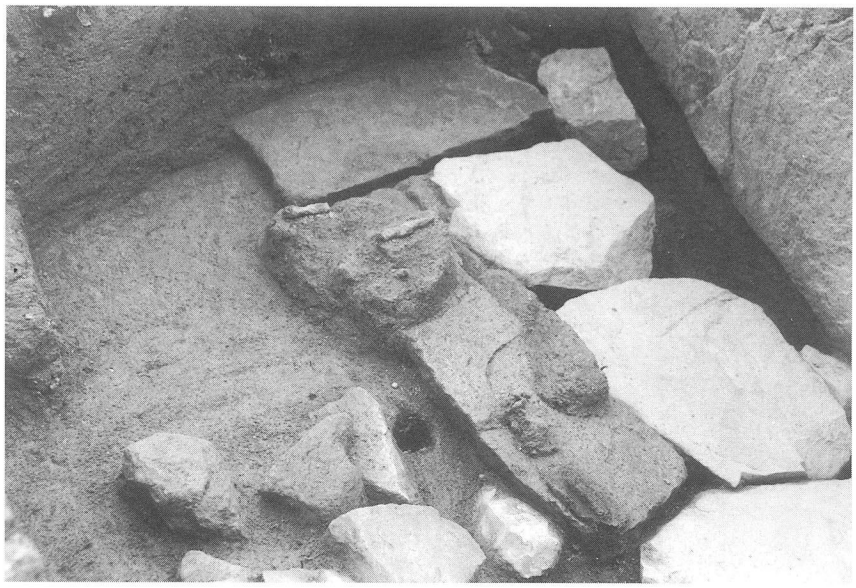
一国山１号墳掘上り状況
（北西から）

一国山２号墳掘上り状況
（南から）

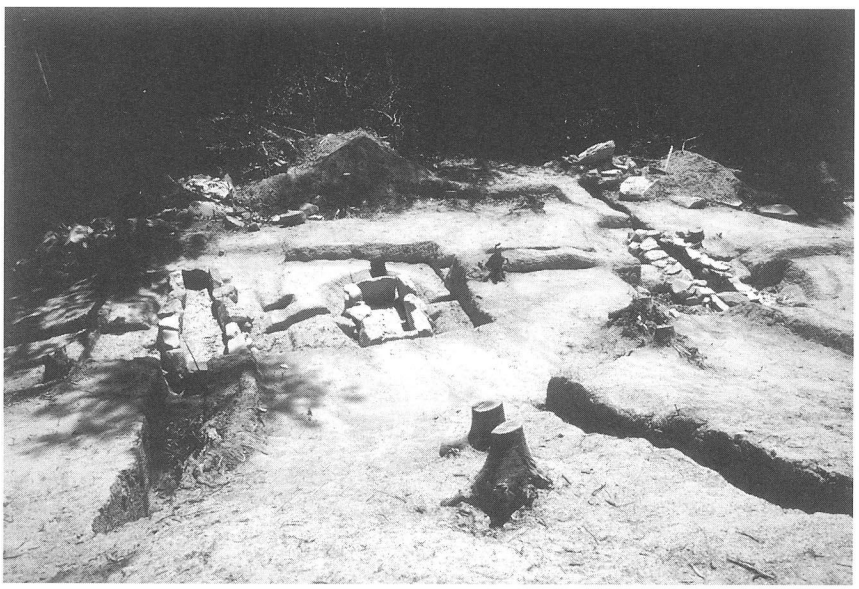
一国山２号墳主体部
（西から）

図版16

一国山２号墳石槨内敷石
（南西から）



一国山２号墳石槨内
鉄釘出土状況
（南西から）



調査中の一国山４号墳
（南西から）

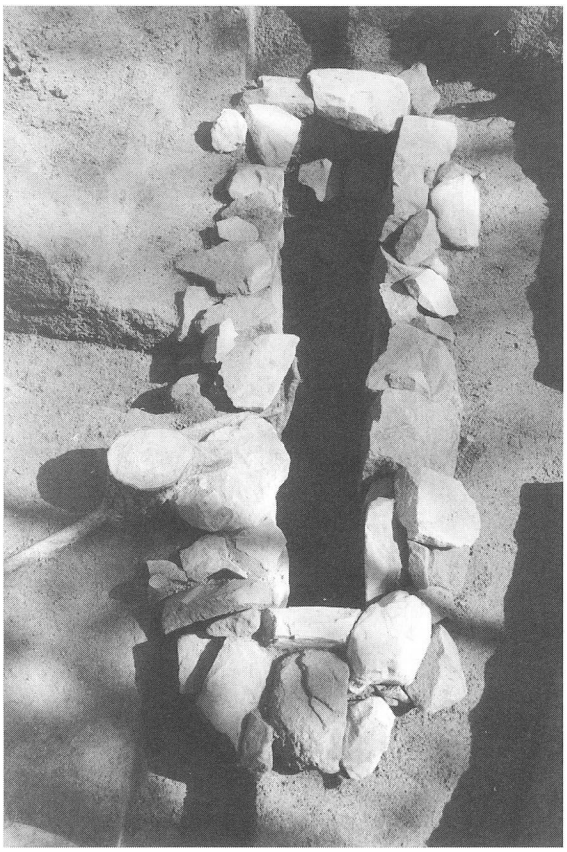
一国山３号墳石棺３蓋石検出状況
（北東から）

一国山３号墳石棺３掘上り状況
（北東から）

図版18

一国山４号墳石棺４検出状況
（南西から）

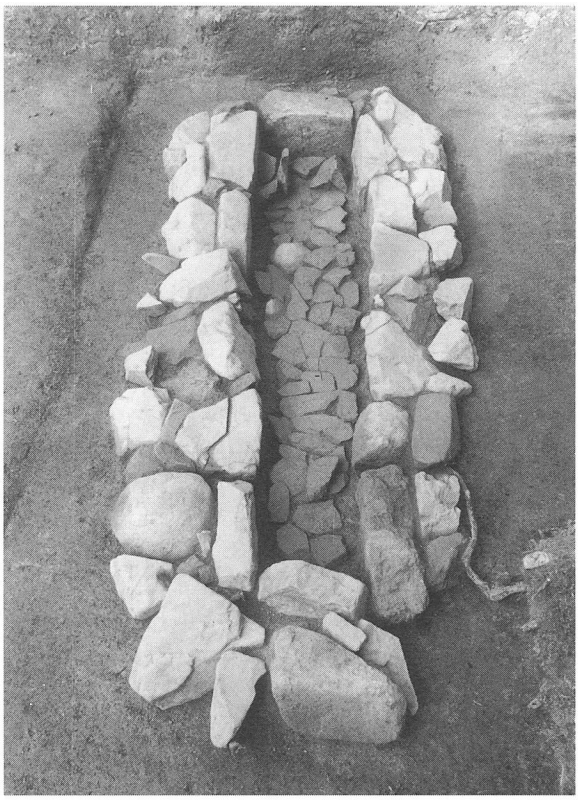
一国山４号墳石棺４蓋石検出状況
（南西から）



一国山４号墳石棺４掘上り状況
（南西から）

一国山４号墳石棺５・６検出状況
（北から）

一国山４号墳石棺５蓋石検出状況
（南西から）



一国山４号墳石棺５掘上り状況
（南西から）

図版20

一国山４号墳石棺６掘上り状況
（南西から）

一国山５号墳石棺７蓋石検出状況
（北東から）

一国山５号墳石棺７掘上り状況
（北東から）